

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

25

定価 **690**円(税込)

2010/7/27

Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン初号機

Character Sheet

日向マコト

Tactics Sheet

第16使徒アルミサエル戦

Timeline Sheet

せめて、人間らしく

Installation Sheet

第3新東京市

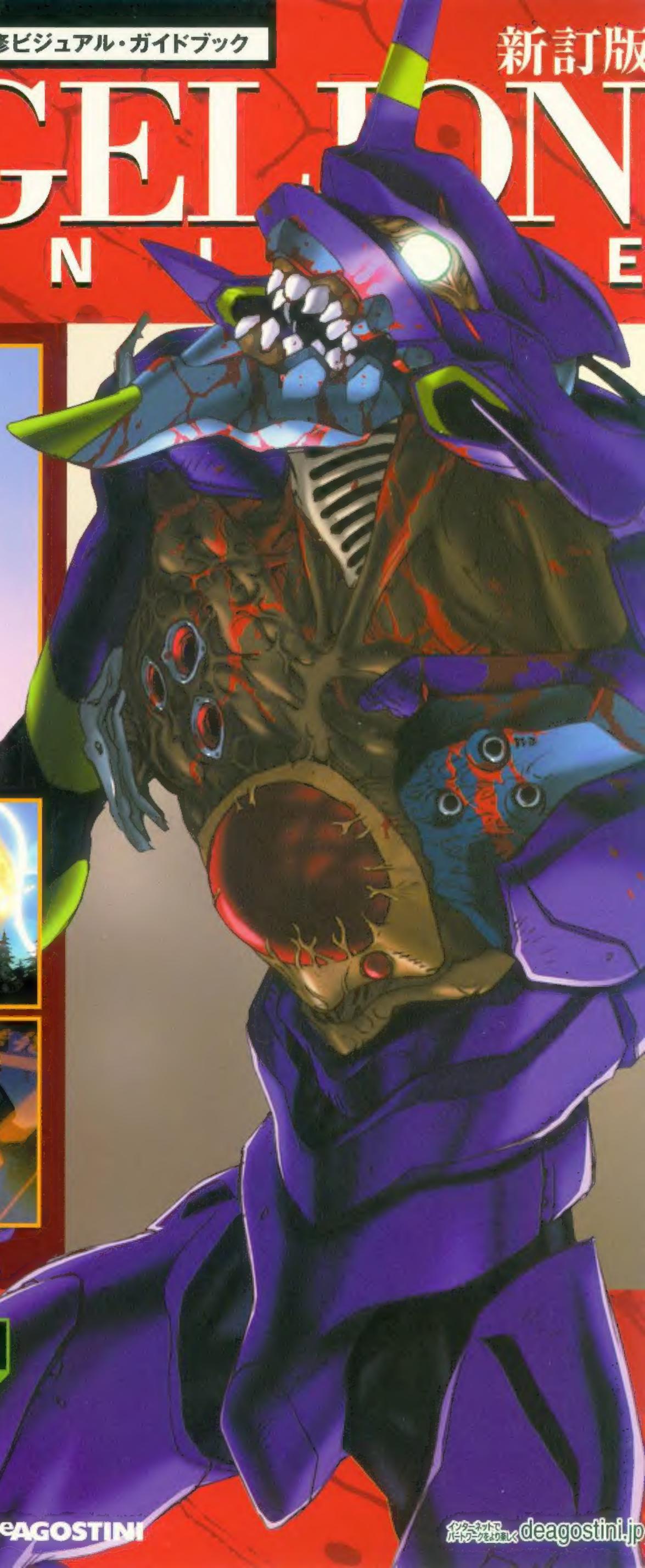
Technology Sheet

EVA活動限界

Extra Sheet

用語辞典

トピックス



**特製バインダー
発売中!**

EVANGELION

CHRONICLE

25

目次 | CONTENTS

Mechanic Sheet メカニックシート

エヴァンゲリオン初号機 C

01-04

Character Sheet キャラクターシート

日向マコト

05-08

Tactics Sheet タクティクスシート

第16使徒アルミサエル戦

09-12

Timeline Sheet タイムラインシート

せめて、人間らしく

13-16

Installation Sheet インストールシート

第3新東京市 D

17-20

Technology Sheet テクノロジーシート

EVA活動限界

21-24

Extra Sheet エクストラシート

用語辞典

25-28

トピックス

29-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで!

PCサイト

▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>

携帯サイト ▶ <http://wpp.jp/eva/>

エヴァンゲリオン オフィシャルストア

▶ <http://www.evastore.jp/>



ココからGO!

[発行日] 2010年7月27日

[発行] 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0045

東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル

[発行人] 小河原和世

[編集人] クロス中山慶子

[チーフエディター] 安部 翠

[印刷] 大日本印刷株式会社

©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.

[編集協力] 株式会社ウィーヴ (石川裕人/田代 豪/大久保圭/本多らな)

[監修] 株式会社ガイナックス

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

<オリジナル版>

[編集協力] 有限会社 メガロマニア (富田英樹/高村泰稔/渡邊洋三/
加藤和弘/山田展寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹)

[執筆] TRAP (西川紗矢/遠藤智子/佐々木まりな)/ぼろり春草

[イラスト] 市川裕文/深野洋一 (M.I.C.)/K2商会/射尾卓弥

[デザイン] ローカル・サポート・デパートメント (島田英明/角田正明)

株式会社 インフォビジョン (河野幹哉/安川純史/田中治彦)

<新訂版>

[編集協力] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (伊藤桃香/米良真一)

[デザイン] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (松本優典)

●書店向け注文受注センター

(書店様からのご注文を承ります)

☎ 03-5212-5311

(月~金 9:30~17:30 土日祝日を除く)

FAX 03-5212-5312

●読者サービスセンター

(本誌関連の一般的な質問を承ります)

☎ 0570-008-109

(月~金 10:00~18:00 土日祝日を除く)

※本商品は2007年に刊行された「エヴァンゲリオン・クロニクル」
(発売:ソニー・マガジズ)に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/eva/>



定期購読のご案内

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで

☎ 0120-300-851

(9:00~21:00 年中無休)

FAX 0120-834-353

(定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)

2. インターネットで

<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)

※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送

(「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。)

特製バインダー発売中!!

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠な特製バインダー2・3巻の2冊セットを通常価格1,790円(税込)で発売しております。お近くの書店でお求めください。

※4巻目のバインダーは第31号でプレゼントいたします。



下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報の取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内を目的とします。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等することはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと確定、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納等専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳重に管理いたします。 4. 個人情報提供の任意性 個人情報提供を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手続きがとれない場合があります。(購入に関するお問い合わせは定期購読受注センター:0120-300-851へ) 5. 個人情報に関する請求等のお問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパンCRM部長 電話番号:03-5309-8286 *受付時間 10:00-18:00 (土日祝日、弊社休業日を除く) *弊社ウェブサイトで個人情報保護の詳細をご案内しております。 <http://deagostini.jp/security/>



汎用人型決戦兵器
人造人間 エヴァンゲリオン

初号機



圧倒的な力を振るう獣のメカEVA



EVA-01

TEST TYPE

Illustration by Hirofumi Ichikawa

EVAに秘められた 未知の力の発現

専属操縦者であるサードチルドレンが危機に陥るたび、規格外の能力を発現するEVA初号機。操縦者の制御を離れた“暴走”と呼ばれる状態の同機は、絶対的な力でもって眼前の使徒を屠る獣と化す。

暴走は初号機の底知れないポテンシャルを知らしめると同時に、ヒトが制御できない兵器だという事実も物語る。ただし、制御下にはないとはいえ標的はあくまで使徒であり無差別に暴れた事実はない。対使徒兵器としての運用リスクは低いと考えられる。

まるで操縦者を守るかのような暴走の発現は、初号機に何者かの意志を感じさせる。それは「魂のないEVAには人の魂が宿らせてある」と赤木リツコ博士が語るように、宿された魂が暴走というかたちによって初号機の真の力を引き出し、操縦者を全力で守っているだけなのかもしれない。

初の実戦である第3使徒サキエル戦において暴走した初号機は、圧倒的な力で同使徒を追い詰め、サキエルは自爆。それに巻き込まれるも、ほぼ無傷で生還する。



第12使徒レリエルの虚数空間に取り込まれた初号機。操縦者の生命維持が切れた直後にエネルギー残量のない状態で稼働し、同使徒を内部から破壊して脱出した。



碓シンジを取り込んでシンクロ率400%となった初号機は、第14使徒ゼルエルを容易く殲滅しただけでなく、同使徒を捕食することによってS機関を取り入れる。

DATA

機体 EVA-01 TEST TYPE

初号機

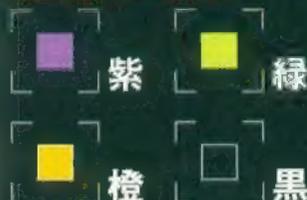
搭乗者:3rd Children

碓シンジ

主武装:WEAPON

バレットライフル
ハンドガン
プログレッシブ・ナイフ 等

機体配色:COLOR



あり得ないわ!

初号機のエネルギーはゼロなのよっ!

(赤木リツコ)



暴走時の頭部



暴走時の初号機

関連事項

- 碓ユイ
- 碓シンジ
- 人類補完計画
- アダム



ゲンドウの妻でありシンジの母。EVAに関する実験事故によって消失したが、その魂は初号機に宿しているともいわれる。

初号機の暴走

「制御できない兵器など全くのナンセンス」とJ.A.開発者の時田シロウが評したように、既存の兵器としては不完全な代物である初号機。しかし、暴走時の標的は使徒のみであり、操縦者の制御下にない場合でも対使徒兵器として徹底しているといえる。なお、NERV総司令である碓ゲンドウは、使徒戦での暴走を想定内の現象と捉えているふしがあるようだ。



操縦者が搭乗していない状態でも動き、サードチルドレンを守っており、暴走というよりは、操縦者を守る緊急回避プログラムのような意志が働いているとも考えられる。

拘束具である装甲

EVAが素体の上に纏う1万2千枚の装甲。これは単なる防御用の装甲板ではなく、EVA本来の力を抑えるための拘束具としての役目も持つ。これは未知の存在である巨人をコピーしてエヴァンゲリオンを造り出した際、ヒトの手に余る力を恐れたゆえの安全装置の一環であろう。事実、格納庫はケイジ(檻)と呼ばれ、アンピリカル・ブリッジによりEVAは厳重に拘束されている。その拘束具でさえも、S機関を取り入れた初号機にとっては意味を持たないただの装甲となってしまう。



S機関を取り入れた初号機は、内側から装甲をはじき飛ばすほどの筋力を発揮。マッシュな素体をさす。それを見た赤木リツコは、EVAの外装は装甲ではなく拘束具であったことを語る。

暴走時の状態

暴走状態の初号機は驚異的な性能を発現する。獣のような攻撃性と共にA.T.フィールドを自在に操り、内蔵電源がゼロの状態でも活動し、圧倒的な力で人知の及ばない存在と化す。例えばその力は、n爆雷992個をもって破壊しようとした第12使徒の虚数空間を、単独で引き裂いたことから示される。暴走時はリミッターが外れ、ヒトが制御する機械から、自らの意志で動く本来の人造人間となる瞬間なのかもしれない。



サキエル戦において折れた左腕を瞬時に復元したほか、ゼルエル戦では千切りとった敵使徒の肉体を使って自分の腕を再生させるという、まさに「あり得ない」離れ業を見せる。

暴走時の頭部



特記事項

暴走とダミーシステム

獣の本能のような攻撃性を見せる暴走は、ダミーシステムが起動した初号機、及びダミープラグで動くEVAシリーズの活動とも酷似している。暴走とダミーシステムには破壊衝動とも言えるべき凶暴さが共通しており、これが人間の制御下にないEVA本来の姿なのではないだろうか。そのため、操縦適格者はEVAをコントロールするための存在でもあり、EVAにとって本来の力を抑える一種の拘束具であるのかもしれない。



暴走状態の初号機のように、獣のごとき攻撃性をもって第13使徒バルディエルを殲滅するダミーシステム。使徒の活動が停止しても破壊を続ける。

ダミープラグで活動する量産機は、活動を停止した式号機を齧るように食い散らかすという残酷性を見せる。



初号機の使用兵器 — 携行火器② —

大口径の自動拳銃は、小型の火器の中でも威力の高い一撃を放つ。パレットライフルは威力不足で使徒を倒す決め手には成り得なかったためか、一撃の破壊力を求めた大型自動拳銃がレリエル戦にて実戦投入されている。しかし、物理的な攻撃が効く使徒ではなかったため、実際の威力を見ることはできなかった。



試作品の銃は、弾丸の初速がA.T.フィールドを貫けるほどの予定値に足りなかったために廃棄され、バルーン・ダミーに持たされることとなったようだ。

レリエル戦での銃は、デザートイーグル.50AEに外見が酷似した制式モデル。大口径のためパレットライフルよりも1発の威力は大きいものと思われる。

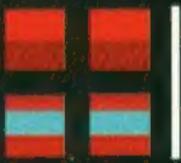


↓試作品のハンドガン





敬愛する
上司を



NERV



日向マコト

MAKOTO HYUGA

補佐する
作戦局の行動派

個人情報

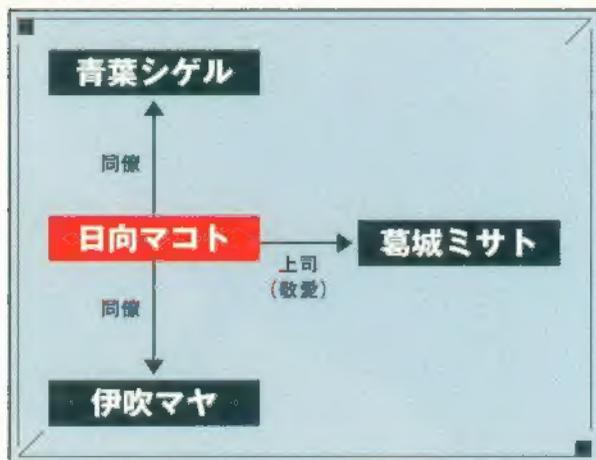
名前	日向マコト
年齢	不明
国籍	日本
生年月日	A.D.?/02/13
血液型	B型
所属	NERV/中央作戦司令部作戦局第一課

特務機関NERVの中央作戦司令部にて、作戦立案、情報分析、通信など様々な任務に従事している日向マコト。勤務中は厳しい表情を見せることも多いが、やわらかな口調と真面目そうな外見が示すように、基本的には穏やかで優しい青年であるようだ。

NERVに入所し葛城ミサトという気性の激しい女性を上司に持ったマコトは、意識しているのか本来の性質なのか、感情を前面に出すことがあまりない。作戦室などでのオペレーション中においても、眼鏡を光らせながら淡々と職務をこなす印象がある。その態度はミサトへの密かな想いを周囲に悟らせないためとも考えられるが、ミサト本人は彼を私的に使うこともあるなど、多少はその想いに気づいている素振りも見られる。それでも上司の要望に応え、的確な作業をこなすマコトは部下として有能であり、サポート役としては万能ともいえる役割を果たす。大胆な作戦を提案するミサトに対しても全幅の信頼を寄せているらしく、ミサトの最も近くで補佐をする姿は誇らし気にも見える。尊敬し心から慕う上司に出会えたことは、彼の人生の転機になったのではないだろうか。司令室の一員として以上に、作戦部長の補佐役として、NERVになくはならない存在であることは確かだろう。

ちなみにオペレーター仲間のシゲル、マヤと同じ二尉という階級は、通常の軍隊で考えれば軍事教育を受けた者に対して与えられるものである。銃の扱いにも慣れているマコトは、何らかの訓練を受けた経験があると考えるのが妥当であろう。

人物相関図



関連事項

- 葛城ミサト
- 青葉シゲル
- 伊吹マヤ
- 中央作戦司令部



戦術作戦部作戦局第一課課長を務める女性。碓シンジ、惣流・アスカ・ラングレーの保護者的な役割も担っている。

表情 / 服装



←目を反らしているマコトは、少し照れているようにも見える。肉体派ではなく頭脳派らしい様子も相まって、どこか品の良い彼からは人の良さがにじみ出ているようだ。



↑画面に向かう仕事が多いためか、実用性を重視したフレームが太いタイプの眼鏡をかけているマコト。彼の視力がどの程度かは不明だが、眼鏡をはずすことはほとんどないようだ。



→険しい表情を浮かべながら何かを訴えている様子のマコト。普段は穏やかな気質であるが、上司に対しても物怖じせず発言する点は、マコトの長所といえるだろう。



使徒との戦いにおいて、正確な情報はEVAの命綱となる。前線には出なくとも、マコトらオペレーターの役割は重要である。



←パイロットが危機にさらされると、仕事をしながらもマコトは心配そうな表情をする。傷つけられていく子供たちをどうにか助けようという気持ちがあるのだろう。

→NERVの制服を一寸の乱れなく着用しているマコト。ミサトと違いまめにクリーニングをしているのか、癖ひとつない気持ちのよい制服姿である。



正面



NERV内に集積される情報を管理する、管制塔の役目を担うオペレーター。戦略自衛隊の本部襲撃、人類補完計画発動など次々と異常事態が発生している間も、マコトが持ち場を離れることはなかった。

キャラクターシート

Character Sheet

日向マコト

Sheet

11

MAKOTO HYUGA

日向マコト

という存在



→マコトの私服はシャツとパンツが定番。制服姿と比べ、ピンクというチョイスが意外なようにも思える。シャツの裾をパンツに入れているのは、彼の生真面目な性格ゆえか。



←オペレーション中に時折見せる、緊迫した表情。シゲルやマヤと比べ、スクリーンに向かって座る彼の場合、後ろに立つミサトへ伝えるために振り返りながら叫ぶことが多い。

マコトはその外見上、NERV司令室内で最も真面目そうに見える青年といえよう。きちんとセットされた髪と茶フレームの眼鏡というエリート然とした外見は、一見近寄り難く思えるタイプである。しかし、子供であるパイロットのことを気遣う態度を見せたり、冗談を言ったりすることもあるように、実際には優しく温和な性格であるようだ。

職務においては、クールなシゲル、少々夢見がちなマヤ、さらには上司のミサトにまで挟まれ、気苦労が多いポジションにいた。それでも特に問題なく務めあげる彼は、作戦遂行、人間関係の双方において、ともすれば非常に難しい役割である司令室の潤滑油的役割をも果たしていたと考えられる。

その一方、選挙カーの乗っ取りや、待機中とはいえ司令室内のオペレーター席で漫画雑誌を読みながら笑うといった、なかなかの胆力も持ち合わせているようだ。上司への憧憬が恋に変わるなど青年らしい面もあり、外見のイメージとは少々異なる内面は、知れば知るほど興味をそそられるものであった。



小説を読むマヤ、エアギターを楽しむシゲルの横で、マコトは『WEEKLY Boo!』という漫画雑誌を読んでいる。ミサトたちのいる司令室内で、多少抑え気味ながら笑い声をたてつつ漫画雑誌を読むという胆の太さも持っていたようだ。



残虐な攻撃を行なう初号機(ダミーシステム)に対し、オペレーターは無力だった。この時ばかりは冷静なマコトも硬直していた。

作戦局所属のマコトにとって、司令室での勤務がメインとなることは意外であったことだろう。たとえ所属を越えた職務を命じられても真面目に難なくこなし、発令所司令塔のオペレーター席において他部署所属のシゲル、マヤともすぐさま連携を築く彼の優秀さは明白である。常に冷静さを失うことなく、作戦局で培った的確な戦況分析能力をオペレーションでも発揮する彼は、司令室内においても重要なポジションを占めていると思われる。また、ミサトが司令室にいる時はマコトの席の側で指揮をとることが多く、共にスクリーンを見ながら即席の作戦室を作り出している姿も散見される。

NERV

スタッフ

としての姿勢

作戦局

第一課

における役割



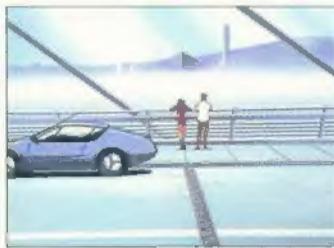
ラミエルの完璧な防御機能と不利な戦況に苦戦するミサトを、マコトは傍らで観察していたようだ。悩む上司への「白旗でも上げますか」という挑発的な言葉は、ミサトに大胆な計画を提案させる一端になったとも考えられる。

第10使徒サハクィエルに対して考案された作戦の勝率は、成功は奇跡に等しいといえる低確率のものだった。オペレーターにも退避を告げるミサトへ、マコトは「子供たちだけ危ない目に遭わせるわけにはいかない」と言い、司令室に残った。



15年ぶりの使徒襲来以降、短期間に次々と訪れる危機によって、NERVは常時戦闘態勢ともいえるような緊迫した状況下に置かれた。本来ならばミサトの作戦立案補佐をする立場のマコトも、戦況報告やオペレーション業務にあたる時間が大幅に増えていると考えられる。ただ、当然ながらシゲルやマヤよりも、直属の上司であるミサトとやり取りする機会が多い。作戦室、司令室どちらにおいても、あくまでミサトの右腕として活躍する機会が多かったようだ。特に第5使徒ラミエルへの対策を練る際には、ミサトの求める資料を瞬時に提示したうえで自らの意見も述べるなど、有能な一面を覗かせている。

葛城 ミサト との関係



渚カヲルの調査結果をミサトに報告するマコト。NERV外、さらに私服であることを考えると、おそらく職務時間外と思われる。職場の外でも上司の個人的な依頼をこなす原動力は、ミサトへの特別な想いから来ているのだろう。

一家ではガサツでスポラな点を指摘されているが、司令室内ではほとんどそのような面を見せていないミサト。マコトが彼女の職場以外の顔を知る機会があったのだろうか。



←↑情熱的な大人の女性であるミサト。その魅力的な姿に惹かれたのはマコトだけではなかった。自分よりもミサトとの付き合いが長い加持に対し、マコトが抱いていた感情を知ることはできない。



作戦局第一課所属のマコトは、作戦部長ミサトの直属の部下にあたる。オペレーターとしてはもちろん、情報収集能力に秀でた彼はミサトの信頼も厚く、彼女の個人的な依頼にもたびたび応えていた。カヲルがゼーレから送り込まれてきた際には素性調査を依頼されており、マコトは情報部のデータベースに割り込むという危険を冒している。また、マヤが所有する極秘データを無断で借用して情報を得るなど、ミサトのためなら危険な行為や多少倫理に外れる行為も厭わないようだ。このことの意味は、カヲルが使徒としてターミナルドクマへの侵入を果たした折に表れた。NERV本部自爆の可能性を示したミサトに対する「いいですよ、あなたと一緒に」という言葉に、マコトの想いのすべてが凝縮されているのだろう。マコトがいつからこのような感情を抱いていたのかは定かではないが、上司への尊敬を越えた想いが彼の忠実な職務態度の根底にあったと考えられる。しかし、常に司令室にいるマコトはミサトと加持の関係も知っていたと思われるため、冷静を装いつつも複雑な心境である場面が多かったことを想像するのは難しくない。

ちなみに、個人的な依頼の中には完全な雑用も含まれているらしく、ミサトはマコトに自分のクリーニングを取りに行かせている。愚痴をこぼしつつもしっかり「任務遂行」してしまうのは、惚れた弱みということだろうか。



タブリスを倒し、使徒との戦いが終わったにも関わらず、攻撃を受けるNERV。その相手はヒト、日本の戦略自衛隊であった。白兵戦場となった本部司令室の中、銃を撃つ勇気が持たず机の下に隠れるマヤを守りながら、マコトは応戦する。

マコトの前に出現したレイは、一瞬のうちにミサトの姿へと変化した。ミサトの手で頬を包まれるという現実にはあり得ない状況に、なす術もなく怯えるマコト。ミサトの求めに反応する間もなく、彼の身体はL.C.Lと化していった。



ゲンドウ、ミサト、リツコといった上層部が不在の状況で、マコトはシゲルやマヤと共に戦略自衛隊と戦った。しかし、必死の防衛戦も報われずに人類補完計画が発動し、敵味方の隔てなく、人々はL.C.Lと化した。NERV職員たちが次々と自我境界線を失っていく様子を目の当たりにし、震えるマコト。そんな彼の前に現れたのは、想いを寄せていたミサトその人だった。かなうことのない上司への想いの裏返しなのか、微笑みながら強引に迫ってくる彼女を、マコトは信じられないという面持ちで見つめる。ミサトに口付けられたままL.C.Lの一部となったマコトは、ある意味幸福であったのかもしれない。

最期の瞬間 に見たもの

特記事項

NERV職員としての大胆さ

突然の大停電に見舞われた第3新東京市。その時を狙いすましたかのように襲来した第9使徒を、停電中のNERV本部は捕捉していなかった。偶然にもNERVの外にいたマコトがいち早く非常事態に気づき、何とかしてNERV本部に知らせようと試みた結果が「選挙カーの占拠」だった。「緊急車両」と称して道路封鎖を突破。さらにウグイス嬢からマイクを奪い、本部司令室までそのまま乗りつけるという荒業をやったのけた。外見からは慎重そうな性質にも見えるが、実際には大胆な行動を取ることが多いマコト。高橋眼候補にとっては迷惑な話だったが、彼の強攻策が功を奏し、NERV本部はただちに使徒迎撃態勢へ移行、無事に使徒殲滅を果たすことが可能となったのである。



←↑高橋眼の選挙カー

高橋眼



一切の電気設備が使えなくなった司令室に、危機を伝える拡声器の音が響きわたる。その後の作戦中も、マコトはこの拡声器を使ってオペレーターの役割を務めた。

道路封鎖を前にして「いいから突っ込め!」と強気な指示をするマコト。ウグイス嬢は蒼ざめるばかりだったが、意外にも乗り気な運転手のおかげで突破は成功した。



タクティクスシート

Tactics Sheet

第16使徒アルミサエル戦

Sheet

26

THE SIXTEENTH ANGEL ARMISAEAL ANNIHILATION BATTLE

Illustration by K2 Shoukai



第16使徒アルミサエルに、物理的接触による生体融合を図られた零号機ではあったが、使徒の体躯を掴み、スナイパーライフルによるゼロ距離射撃で応戦する。しかし、さしたる効果は得られず、第16使徒は零号機の機体のみならず、搭乗者であるファーストchildレンの肉体、および精神にまで干渉してくるのであった。

知恵を得た使徒によるファーストchildレンへの接触

EVAとの生体融合による使徒からの積極的な一次的接触

TACTICS SHEET

強羅絶対防衛線を突破した使徒に対して単体で迎撃することとなった零号機であったが、開戦と共に環状から紐状へと変態した使徒により機体腹部を攻撃されてしまう。だが、これは単純な物理攻撃ではなく、使徒がEVAの機体へ融合を試みるための物理的接触と呼ぶべきものであった。第12使徒レリエル戦、第15使徒アラエル戦と使徒からの接触は幾度かあったが、第16使徒アルミサエル戦は使徒がEVA搭乗者に対して“積極的な一次的接触”を試みた戦闘として注目される。

使徒は零号機の侵食と同時に搭乗者の肉体と精神にも積極的に干渉を行なったとされ、ファーストchildレンの全身には葉脈状腫が現われるなど外傷的な異変も確認されている。危険を察知したファーストchildレンは使徒もろとも機体を自爆させる捨て身の行動をもって敵殲滅を完遂したが、

その代償は大きく爆発に巻き込まれた第3新東京市の消滅という事態をも招いてしまった。しかし、先にも述べたように、本使徒戦において重要な点は使徒が零号機、およびファーストchildレンに対し積極的な接触行為に終始したことにある。これまでの多くの事例において、使徒は第3新東京市中心部への侵攻を行動目的としており、EVAはその行動の妨げとして排除すべきもの＝攻撃対象と捉えられていた節があった。その中で、第12使徒レリエル戦では、サードchildレンと使徒の精神的な接触が行なわれたと推測される。その後、使徒と人の接触を決定付けたのが、第15使徒アラエル戦での式号機とセカンドchildレンに対する、可視波長光線による精神攻撃であった。すなわち、サードchildレンとの接触により、使徒が人間の精神構造や深層心理の存在を知り、その興味を追求行動として現したのが第15使徒であり、そこで得た知識や経験を踏まえた上で、第16使徒は零号機に対して接触、融合を試みてきたとも推測でき

るのである。この接触によって、使徒はファーストchildレンの感情や欲求を“認識”したと思われる。零号機と接触後の第16使徒は、ファーストchildレンの“心の欲求”に沿った行動(サードchildレンへの接触、および融合)を取ったことは、この説を裏付ける事象であろう。

使徒が各個体で得た知識や経験は、個体を超えて伝搬しているという見方もこれまでの例から有力となっており、使徒が種全体として確実に知恵を身につけていることは明らかである。このように度重なる使徒と人間との接触により、使徒は死海文書に記された最後の使徒＝第17使徒タブリスの形態へと辿り着いたと考えられよう。

関連事項 RELATED MATTERS

- 第16使徒アルミサエル
- EVA零号機(改)
- ファーストchildレン
- 強羅絶対防衛線
- 第3新東京市



強羅絶対防衛線を突破、大涌谷上空に滞空していたアルミサエルは、零号機と交戦。ファーストchildレンへの接触を試みる。

第16使徒アルミサエルの出現

強羅絶対防衛線を突破した使徒であったが、第3新東京市へ侵攻せず大涌谷上空に滞空。現場で迎撃準備を整えていた零号機に葛城三佐は戦闘態勢のまま一時待機を指示する。しかし、使徒は突如、零号機へ物理的接触(具体的には腹部侵食)を開始する。零号機のA.T.フィールドは通常通り展開していたが、使徒はこれに阻まれることなく、そのまま零号機の機体と融合。その侵食は早く、数分のうちに零号機の生体部品の5%が侵され、パイロットの肉体にも影響が出始めた。後方待機中の式号機に援護の指示が出るも、パイロットの深刻なシンクロ率低下により起動に失敗。その間にも零号機と使徒との生体融合は進み、碓司令は初号機の凍結を解除、出撃を命じた。零号機援護に発進した初号機だったが、これに対して使徒は瞬時に反応。驚くべきことにその紐状体躯を初号機の発進ポイント付近にまで伸ばすと、初号機とも融合を試みる。だが、零号機パイロットはA.T.フィールドを反転させ使徒を押さえ込むと、機体の自爆装置を作動。零号機もろとも使徒は殲滅されたが、その破壊力は凄まじく、第3新東京市をほぼ壊滅させてしまったのである。



使徒は出撃した零号機の機体と生体融合を行なった。そしてそのままパイロットであるファーストchildレンの肉体をも侵食。零号機機体表面に発生したと同様の葉脈状腫がパイロットの体にも出現している。

自爆装置により臨界点を突破したEVAのコアの爆発は凄まじいものかあ。この爆発、呑み込まれた第3新東京市をほぼ壊滅。その被害状況を鑑みれば、相対的民間人犠牲者も出たと考えられる。

技術調査

セカンドchildレンのシンクロ率

これまでEVAとの高水準のシンクロ率を保持していたセカンドchildレンであるが、第14使徒戦以降シンクロ率は悪化の一途を辿っていた。そして、第16使徒戦では、ついに起動さえも不可能なほどに低下してしまっている。シンクロには多分に精神的な要素が絡んでおり、第14使徒戦での徹底的な散光による自信喪失と、第15使徒戦での精神攻撃で心率的にさらなるダメージを受けたことが、セカンドchildレンのシンクロ率の悪化を招いたと考えられる。



これまで安定して高いシンクロ率をマークしてきたセカンドchildレンであったが、精神的な問題からシンクロ率はついに二桁を割り込んでしまった。

出現した第16使徒アルミサエルに対し、唯一出撃可能な状態にあった零号機が単体で迎撃を開始する。しかし、従来の使徒とは異なり、第16使徒は第3新東京市中心部へは侵攻せず、出撃した零号機に対し、積極的な一次的接触を行なっている。

第16使徒アルミサエル殲滅までの経緯

1 使徒の出現

強羅絶対防衛線を突破し、第3新東京市方向へ侵攻していた使徒は、大涌谷付近へ到達すると突如として移動を中止してその場に滞空する。このとき、作戦行動可能なEVAは零号機のみであったため、零号機が単独で現場へ向かう。NERVは、使徒の停滞を利用し迎撃作戦準備と使徒の分析。その結果、使徒の現状形態が固定した姿ではないことが判明している。



環状の形態で出現した使徒は、その二重螺旋構造のボディを定点回転させつつ大涌谷付近で滞空。第3新東京市の中心部へは侵攻してきていない。

2 使徒、零号機(改)と接触

本体を環状形態から紐状へと変化した使徒は、零号機へと突撃。零号機は応戦間に合わず、さらにA.T.フィールドも突破されて機体腹部を攻撃されてしまう。零号機は紐状となった使徒の体躯を掴むと、スナイパーライフルでゼロ距離射撃を敢行するも効果なし。一方、使徒が物理的に接触した零号機の腹部、および左手首より生体部品の侵食が始まっている。



本体を紐状、変化した使徒は、その先端を零号機の機体、伸ばす一瞬後れを取らず零号機であったが、使徒を掴むと、スナイパーライフルで攻撃を敢行。

3 式号機、初号機の出撃

急速に侵食されて行く零号機は危機的状況となり、葛城三佐はバックアップとして発進体勢のまま待機中であった式号機を緊急出撃させる。だが、深刻なシンクロ率低下により式号機は起動せず、母座に撤収された。生体融合の進んだ零号機の本体が異様に変容するのを確認した碓司令は初号機の凍結を解除。零号機救援のため、初号機が出撃する。



作戦指示により地上へ射出された式号機であったが、シンクロ率の低下により起動不能。使徒の餌食になるのを回避するため、フトオフすることなく回収された。

4 使徒、初号機と接触

凍結を解除された初号機は、ファーストchildレン救出に出撃する。使徒は大涌谷付近で零号機を侵食した状態であったが、紐状の体躯を伸ばして第3東京市内の初号機に対しも接触を図っている。初号機はプログレッシブ・ナイフで応戦するか、決定的なダメージは与えられていない。結果、使徒の侵食によってファーストchildレンの肉体にも生体融合がおよび始めた。



初号機へと接触を果すにつれて使徒の体躯の先端はファーストchildレンの姿となっていた。また初号機の攻撃に対し悲鳴、似たか“声”を発している。

5 使徒の殲滅

使徒の動きから、自身の意識と使徒の行動がシンクロしていると判断したファーストchildレンは、A.T.フィールドを反転させ使徒の行動を抑制。このことで零号機は使徒を初号機より分離させ完全に押さえ込むことに成功する。さらにファーストchildレンはA.T.フィールドを維持しつつ自爆装置を作動。零号機のコア爆破に巻き込むことで使徒を殲滅した。



自爆直前の零号機は瞬時にファーストchildレンそのものの姿へと変貌した。この不可思議な現象が、使徒と生体融合を果した結果であるかどうかは不明である。

特記事項

初号機の凍結解除

第14使徒戦でS機関を取り込んだ初号機であったが、人類補完委員会の意向もあり、しばらく凍結とされていた。そのため、第15使徒戦において初号機は未出撃であり、凍結が解除されたのは第16使徒戦時であった。ただし、第15使徒戦においては、碓司令はロンギヌスの槍の使用を許可しており、どちらも緊急を要する危機的状況であったことがうかがわれる。ただし、初号機投入は使徒殲滅の決定打にもならず、零号機を損失する結果となった。



零号機の崩壊を見た碓司令は、極めて冷静に初号機の凍結解除を指示した。あまりに高貴なその判断に、葛城三佐は不信感を露わにしたと言われている。



EVA初号機

第14使徒戦の結果S機関搭載を義務化した初号機。他のEVAと異なり暴走や自律再起動など不可解な挙動が多い。



初号機からのサトルバグ後継機状態だったサードchildレンも、凍結解除により戦線復帰した。

S機関搭載後の初出撃となった初号機。だが、従来のアムビリーカムをベースとした機体であった。

タクティクスシート
actics Sheet

第16使徒アルミサエル戦

Sheet

26

THE SIXTEENTH ANGEL ARM SAEL ANNIHILATION BATTLE

Illustration by iwano TOK KO YUZAWA

アルミサエル戦配置図

第16使徒アルミサエル迎撃に際しての、目標の位置とEVA各機の展開状況を以下に示す。この図を見ても、初号機への攻撃においてアルミサエルがいかに長距離を瞬時に伸展したかが見取れる

4 式号機出撃地点

本作戦ではバックアップ担当として射撃に待機中であった式号機だが、戦闘中の零号機援護のため発進。リフトビルより地上へと送り込まれるものの、起動不能のため発進することなく即回収された。



第3新東京市内

4 式号機出撃地点

第3新東京市

5 初号機出撃地点

凍結解除により初号機が、目標に対して1対する位置に発進。しかし、目標は人涌谷で零号機と戦闘中にも関わらず、本体を初号機の発進ポイントにまで伸ばし、攻撃を仕掛けてきている。



第3新東京市内

5 初号機出撃地点

芦ノ湖

三島

1 使徒通過地点

環状形態で浮遊しながら侵襲してきた第16使徒アルミサエルは、交戦することなく強羅絶対防衛線を突破。NERVはこの絶対防衛ラインでの迎撃に間に合わず、使徒の侵襲を許してしまった。

強羅付近



1 使徒通過地点

環状形態で浮遊しながら侵襲してきた第16使徒アルミサエルは、交戦することなく強羅絶対防衛線を突破。NERVはこの絶対防衛ラインでの迎撃に間に合わず、使徒の侵襲を許してしまった。

2 使徒滞空地点

絶対防衛線を突破した目標は、従来の使徒と同様に第3新東京市中心部へとそのまま侵襲してくるものと思われたが、人涌谷付近へ到達すると、移動を一旦停止しその場で定点回転しつづけて滞空している。

人涌谷上空



3 零号機(改)配置地点

人涌谷上空にて滞空し続ける目標に対して、スナイパーライフルを構えたまま零号機はその近辺で待機。目標の圧力をうかがうも、使徒は突如として零号機に対して形状を細状に変化させ攻撃を開始した。

人涌谷付近



6 零号機自爆地点

目標と戦闘を続けていた零号機であるが、ゼロ距離の密着状態であったため、ほとんど移動することなく交戦状態が続いていた。最終的に零号機はその場で自爆することで、使徒を殲滅することとなった。

人涌谷付近



技術調査

アルミサエルの能力

第16使徒アルミサエルは、出現時にはDNAを連想させる細長い二重螺旋構造で、常にぼんやりと発光した形態であった。ただし、この形態は固定的なものではなく、戦闘時には本体は伸縮自在の触手のような紐状と化している。また、物理攻撃と同時に攻撃対象へ接触を行ない、そのまま生体融合を果す能力を有している。この接触はEVAのみならず搭乗者の肉体や精神にも影響をおよぼし、実際にアルミサエルと接触し生体融合を図られた零号機や初号機のパイロットの肉体には、侵食によって多数の葉脈状態が出現したことが確認されている。さらに零号機のパイロットとの融合が進行した結果、アルミサエルの一部はファーストチルドレンを模した形状に変質、その形状は自在に変化できるようだ。



アルミサエルの攻撃は、EVAのA.T.フィールドをも無効化した。そのため零号機は最初の一撃で、腹部への接触、侵食を許してしまう。

① 環状形態

出現時から大涌谷上空で滞空していた時のアルミサエルの状態。この形態で定点回転しつづけて、青とオレンジの波長パターンを周期的に変化させている。



② 紐状形態①

戦闘形態と考えられる紐状の状態。細長い触手を思わせる行動を取り、またそのサイズも伸縮自在であり、大涌谷から第3新東京市まで瞬時に伸ばすことが可能。



③ 紐状形態②

零号機、およびそのパイロットとの生体融合が進行した結果、アルミサエルのボディの先端がファーストチルドレンの姿を複製したような形状に変化した。



追加報告

第3新東京市の被害

零号機の自爆により発生した膨大な爆発力は、第3新東京市をほぼ呑み込むほど広域におよんだ。この結果、第3新東京市の地表部分は巨大なクレーターと化している。そのため、街としての機能は完全に消滅。幸うじて被害を免れた一般市民はすべて退去し、第3新東京市は事実上消滅したと見てよいだろう。



零号機の自爆時に発生した爆炎は、地上数百メートルにまで達した。その莫大なエネルギーは、第3新東京市全体を破壊するには充分すぎる威力であった。

爆発の影響で隣接する芦ノ湖から湖水が流入し、崩壊と化した市街部は完全に水没。第3新東京市の復興の可能性は、ほぼ失われたと見て過言ではない。



作戦報告

度重なる使徒戦による戦力の低下

第3使徒戦から数えて第14戦目となったアルミサエル戦は、ある意味でNERVの戦力の疲弊が見える戦闘でもあった。セカンドチルドレンの心理ケアの問題に起因する式号機の活動不能という事態はその最たる例であろう。また、作戦の展開が後手に回らざるを得なかった原因のひとつには、零号機単体での任務遂行があった。凍結という事情はあるものの零号機救援という形での初号機の投入は、機を逸していた感もある。こうした結果が零号機の機体のみならず、第3新東京市をも失うことに繋がったといえるであろう。



式号機の活動不能により、零号機は敵大軍に追いつけず、また、零号機救援として、急遽出撃した初号機も機体ながら十分な戦力としては機能しなかった。



零号機の凍結は、零号機がパイロットごと目撃されたという形で行われた。その代償は零号機の損失に留まらず、第3新東京市の消失という甚大なものとなった。

追加報告

ファーストチルドレンの生存

ファーストチルドレンが取った使徒殲滅のための最終手段は、搭乗する零号機もろとも使徒を爆散させることであった。初号機とも融合を試みた使徒に対し、ファーストチルドレンはA.T.フィールドを内側へ反転させることで、零号機とすでに生体融合を果たした使徒の活動を抑え込むと、自爆プログラムを起動。EVAのA.T.フィールド発生には搭乗者の存在が不可欠であるため、ファーストチルドレンは零号機と運命を共にすることとなったのである。零号機の自爆によってファーストチルドレンの生存確率は皆無と思われていたが、爆心地から離れた場所でエントリープラグが発見され、のちにファーストチルドレンの生存が確認されている。しかし、自爆時の後遺症によるものなのか、サードチルドレンと再会時には自らを「3人目」と呼ぶなど不可解な言動や記憶の混乱が見られた。



発見された零号機のエントリープラグであったが、赤木博士の指示ですべて処分。一筋に発見されたと思われるパイロットの救出当時の状態も極秘扱いとなっている。



ある日、NERV本部内の実験室で、重傷を負ったファーストチルドレンの姿が確認されている。しかし、自爆時の記憶については、まるで他人事のような反応を見せた。



アルミサエルのボディの先端が初号機に絡みつくと。その先端は、異様にもファーストチルドレンの姿に変貌していた。

新世紀年表

NEON GENESIS
EVANGELION

せめて、人間らしく

「君か」振り向いた冬月の前に現れたのは、加持だった。「ごぶさたです。外の見張りにしばらく眠ってもらいました」拉致の手引きをしたはずの加持が、冬月の拘束を手早く解き始める。「この行動は君の命取りになるぞ」「真実に近づきたいだけです。僕の中のね」いさめるような冬月の言葉に、加持はそう返した。まもなく冬月はNERV本部に無事に帰還し、ミサトもまた諜報部の拘束を解かれることとなった。

A.D.2015

01

加持、冬月を解放する

ゼーレにより拉致されてしまった冬月。閉じ込められている暗い部屋に、扉が開く音が響いた。「君か」振り向いた冬月の前に現れたのは、加持だった。「ごぶさたです。外の見張りにしばらく眠ってもらいました」拉致の手引きをしたはずの加持が、冬月の拘束を手早く解き始める。「この行動は君の命取りになるぞ」「真実に近づきたいだけです。僕の中のね」いさめるような冬月の言葉に、加持はそう返した。まもなく冬月はNERV本部に無事に帰還し、ミサトもまた諜報部の拘束を解かれることとなった。



「見えない性質がないように見える加持の行動。だがそれは、彼なりの理念があった」



ミサトはNERV内の独房に収監されていた。やがてそこへ諜報部の男が現れ、問題は解決しと伝える「彼は」、加持の安否を問うミサト。「存じません」という男の答えに、ミサトはなにかを予感したのか、静かに目を伏せた

A.D.2015

04

アスカ、シンクロナ率の試験を受ける

シンクロナ率のテストが行なわれる中、アスカは幼い日のことを思い出していた。式号機の実験で精神崩壊を起こした母は、人形をアスカだと思い込み、うつろな笑顔で呼びかけていた。父親はそんな姿に見向きもせず、愛人の女と親しげにしている。そしてやがて訪れた母の死……。浮かんでくる苦しい記憶に眉を寄せるアスカの耳元で、リツコの声がした。「聞こえる、アスカ？ シンクロナ率、8も低下よいつもとおり余計なことは考えずに……」「やってるわよ！」いらついたアスカはキツイ口調で叫び返した



「あの、自分ではなかなか、然と語り幼き日のアスカ」



近頃 下がる 方のアスカのシンクロナ率を心配するマヤ「困 たわね この余裕のな」とき、リツコは静か、ついでに「やはりレイの零号機を優先させま、よつ。まは同時、修理できるだけのゆとりはないわ」と冷静に述べた

2015年

加持、冬月を解放する

加持、何者かに始末される



●第3新東京市

A.D.2015

03 ミサト、加持のメッセージを受ける

加持からの最後のメッセージに、ミサトは涙した

帰宅したミサトは、誰かからの留守電が残されていることに気づく。葛城。真実は君と共にある。迷わず進んでくれ。……もし、もう一度会えることがあったら、8年前に言えなかった言葉を言うよ。これが加持からの最後の言葉。そうわかっていたミサトは激しく嗚咽するのだった。



「ハカ あんた 本当はハカよ つい愛してた男の最期にこゝろはテール、伏して戻した」



「自室、たノノはミサトの様子、気づくが自分、はなにもできな、自分の世界に逃げ込む」

→真意の見えない態度をとっていた加持。たか、最後の言葉と意思をミサトに託す



留守電に入ってくる伝言が誰からのものなのか、予感していたミサトは震える指を伸ばした



A.D.2015

●7

02 加持、両者がに始末される

巨大な換気扇が回っている。その前に、ひとりの男が立っていた。加持である。加持は誰かを待っているようだった。やがて、何者かの気配に、目を上げる加持。「よう。遅かったじゃないか」いつものように軽い口調で加持が口を開いた直後、その場に銃声が響いた。



NERV内のどこかたろうか、加持はひとたたずんでいた

自分の運命を覚悟して、たかのよう、その顔には薄い笑みが浮かんで、た

●NERV本部

04 EVA、量産が開始される

EVAの修理が進められる中、ミサトは日向からEVA13号機までの建造が始まったことを知らされる。なぜこの時期に量産を急ぐのか疑問に思うミサト。予算も倍増され、上層部が焦っている気配を感じる。「なにか別の目的があるのよ、ミサトは険しい顔つきでそうつぶやいた。



アダムから生まれたEVAを見て、ミサトは物思いに沈む

知らぬところで、なにが進められているのか、ミサトは上層部の意図をいっかしむ

A.D.2015

●第3新東京市

04 アスカ、シンジと衝突する

アスカに、ドイツの母から電話がかかってくるが

徐々に全員かそろったというのに、葛城家の夕食には重苦しい空気が満ちていた。やがて、ドイツにいるアスカの母から国際電話がかかってくる。アスカはシンジから受話器を取り上げると、打って変わった明るい口調で話し始めた。流暢なドイツ語で続く会話は、ずいぶん楽しげに見える。電話を切ったあと、「いいな、家族の会話」と言ったシンジに、「まあ、上っ面はね。表層的なものよ。本当の母親じゃないし」と、アスカは淡々と答えた。



無言での夕食が続く葛城家。その重く鬱陶気はペンペンも感じていた

とっせ加持からの電話だろうと言っアスカ、対「それはないわ」と、流し声でぼつと答えるミサト



「見栄っけ、会話をしていたアスカ、たか、電話を切った途端、その表情は冷めたものになる」



「なんであんたにこんなこと話さなきゃなんなのよ、一口か片、たことと思わずキレるアスカ」

アスカ、シンジと衝突する

EVA、量産が開始される

アスカ、シンクロ率の試験を受ける

ミサト、加持のメッセージを受ける

A.D.2015

●NERV本部

07 アスカ、ハーモニクス試験を受ける

アスカは翌日のハーモニクス試験でも低調だった。「アスカ、今日、調子悪いのよ。2日目だし」ミサトがかはうが、リツコは、シンクロ率は表層的な身体の不調に左右されないといへもない「問題はもっと深層意識にあるのよ。……式号機のコア、変更もやむなしかしらね」



シンジに負けたアスカのプライドはガタガタだ。3人での暮らしも限界なのかもしれないとミサトは言える

「女だから、でなんでこんな目、置わなきゃいけないのよ。子供なんだから絶対、っないの。下腹部の痛みをこらえながら吐き捨てるアスカ」



08 アスカ、レイと衝突

嫌いなレイと、ハーモニクス試験の帰りのエレベーターで乗り合わせてしまったアスカ。長い沈黙のあと、レイが口を開いた。心を開かなければEVAは動かない。EVAには心があるのたと。「機械人形みたいなあなたにまで同情されるとは、このあたしもヤキが回ったわね!」「私は人形じゃない」



「シンジだけがうれしいのよ!」プライドがずたずたのアスカは、ヒステリックに怒鳴った

ケントウが死ぬと言えは死ぬと言っレイ、アスカは平手打ちを食った。「やばい人形じゃない」



09 第15使徒、地球周回軌道に出現

本部内にけたたましく警報が響き渡った。第15使徒である。衛星軌道に出現した使徒は、本部から一定の距離を保ったまま動こうとしない。ミサトは零号機に長々距離射撃、式号機にはそのバックアップを指示するが、アスカはそれを不服として、勝手に式号機を発進させてしまう



黙って自分の言うとお、動けよ、の+とアスカが式号機、語らなくていいとき、アツカが囁いた

EVAは、衛星軌道上の敵を倒す力はない。向こうか射程距離、入ってくるのを待つしかない、サトは判断するか



A.D.2015

●第3新東京市

12 レイ、使徒迎撃に失敗

零号機は射程外の敵へ向けて長々距離射撃を試みた。だが、その攻撃はA.T.フィールドに簡単にはじかれてしまう。一方、リツコは、式号機を包む光はまるでアスカの心を探ろうとしているようだと感じていた。「まさか、使徒は人の心を知ろうとしているの?」



零号機の攻撃は敵A.T.フィールドにより拡散

「舌された。私の心が幼、日のトマウマを強制的に暴かれ、アスカは、すくまる」



A.D.2015

●NERV本部

13 ゲンドウ、ロンギヌスの槍の使用を許可する

ケントウの決断に、ミサトはNERVの欺瞞に気づく。式号機は活動停止し、パイロットの生命維持もいよいよ危険な状況になってきた。ここでゲンドウはレイにロンギヌスの槍を使うよう、指示を出す。槍が地下のアダムに突き立てられていることを知るミサトは、驚きを露にした。彼女の知る情報では、EVAとアダムの接触はサードインパクトを引き起こす可能性があるのではなかったのか?だが、ゲンドウの態度を見て、自分の信じてきたことが欺瞞であったことに、ミサトは気づかされるのだった。



アフレレに対する攻撃手段は、精神攻撃、より絶対絶命の式号機



シンジが初号機で出ると言い出すか、ケントウと冬月は初号機を侵食されるわけにはいかないとはねつける



A.T.フィールドの届かぬ衛星軌道の敵を倒すには、それ、かな「さっさとケントウ」



セカンドインパクトは使徒の接触が原因では、なのだから、本部の原因は?自問するミサト

2015年

アスカ、ハーモニクス試験を受ける



アスカ、レイと衝突



第15使徒、地球周回軌道に出現



アスカ、使徒迎撃を試みる



●第3新東京市

A.D.2015

10 アスカ、使徒迎撃を試みる

ホロホロのフライトをかけ、アスカは戦いに臨んだ

「冗談じゃないわよ。EVA式号機、発進します!」勝手に地上へ飛び出した式号機。だが、「いいわ、先行してやらせましょう」と、ミサトはそのままアスカにやらせてみることにする。これがアスカに与えられた最後のチャンスなのだ、リツコらNERV職員たちだけでなくアスカ本人も理解していた。「これを失敗したら、たぶん式号機を降ろされる。ミスは許されないわよ、アスカ」アスカはそう自分に言い聞かせるようにつぶやき、雨が降る中、アラエルを迎撃するためにポジロン20Xライフルの照準を敵のいる衛星軌道上へと定めた。



ハフアラエを命じられたアスカは、必死の覚悟で発進する



なかなか近づいてこない使徒にアスカが業を煮やし始めたとき、不意にまばゆい光が式号機を包んだ。使徒が精神攻撃を仕掛けてきたのである



雨が降りしきる中、ライフルを構え、アスカは使徒はまア射撃距離から撃つ



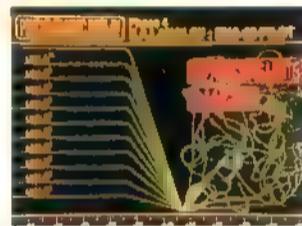
「式号機パイロットの交換を考慮してください、マヤ、ささやく、ノリ」一方、初号機はセントウの絶対命令で凍結状態となっていました

11 使徒、アスカに精神攻撃をしかける

なかなか近づいてこない使徒にアスカが業を煮やし始めたとき、不意にまばゆい光が式号機を包んだ。使徒が精神攻撃を仕掛けてきたのである自分の心の中へ入り込まれ、トラウマを暴かれ、激しい苦痛に悲鳴を上げるアスカ。ミサトは撤退を命じるが、アスカは苦しみながらも、かたくなにそれを拒んだ。「いま戻るなら、ここで死んだほうがマシだわ!!」



「私の中、入ってくる。痛。痛。」使徒の攻撃でアスカの心が蝕まれていく



くちくちくちくちく。くちくちく。アスカの精神は限界を迎えようとしていた

A.D.2015

12 使徒、撃退

ロンギヌスの槍に貫かれ、使徒は滅んだ

「破、また早いのではないか?」密かに耳打ちする冬月に、ゲンドウは委員会がEVAの量産を始めたいま、これはチャンスだと答えた。「時計の針は元には戻らない。だが自らの手で進めることはできる」同じころ、セントラルドグマを下降した零号機は、アダムとされる巨人を十字架に張りつけていた長大な槍を引き抜き、再び地上へ戻っていた。投擲態勢をとり、はるか彼方の使徒へ向かってロンギヌスの槍を鋭く放つ零号機。槍は空を切り裂いて飛び、A.T.フィールドごと使徒を粉碎した。使徒の消滅と共に式号機は解放される。



ロンギヌスの槍の使用、アスカは密かに話を交わす



アラエルに向かい一直線に飛んだ槍は、やがて敵の防壁を貫き、使徒を打ち倒した



敵を殲滅したものの、月軌道に乗った零号機は、その回収は不可能に近い



零号機は本部の最要部に起き、アダムとされる存在、刺されて、たロンギヌスの槍を引き抜き地上へと運んだ

●第3新東京市

13 アスカ、プライドを傷つけられる

アスカに怪我はなかった。ヒルの屋上にうずくまる彼女に、ためらいがちに声をかけるシンジ。「よかったね、アスカ」だが、アスカは怒鳴り返す「うるさいわね! ちっともよくないわよ! よりにもよって、あの女に助けられるなんて……っ」ひざに顔をうずめ、アスカは涙ながらに叫んだ。「嫌い! 嫌い! みんな嫌い! 大嫌い!!」シンジは何も言えなかった



アスカが無事だと日向から聞かされる。サトウがその顔はなせか浮かぬ



シンジ、負けず。今度はレイ、救われ。こんなことなら死んだほうがマシだ。アスカはうき叫ぶ

使徒、アスカに精神攻撃をしかける



レイ、使徒迎撃に失敗



ゲンドウ、ロンギヌスの槍の使用を許可する



使徒、殲滅



アスカ、プライドを傷つけられる



多数のNERV関係者と、その家族が暮らしている第3新東京市。保護者にあたる人間は、NERVの激務に追われることが多かった。そのためか、子供たちが家事をこなしているという家庭も思いのほか多かったようだ。

第3新東京市の居住施設

生活圏としての第3新東京市の変遷

神奈川県足柄下郡箱根町——第2次遷都計画において「第3新東京市」建設の当該地に選定された一地域である。遷都を前提に建設が進められたこの小さな都市は、建設開始時から多くの人々を迎え入れ、新たな生活圏を形成していくこととなる。しかしこの当該地は、国連直属の特務機関で使徒殲滅を主な任務とするNERVの置かれる地であり、対使徒戦における実質的な「最前線」となるべく選ばれた場所でもあった。国連主導で進められることとなった建設計画は、当然ながら使徒襲来を見越したものであり、第3新東京市は最先端の軍事技術を導入した強固な「要塞都市」となることを義務づけられていたのである。

建設計画の進行上、そういった特殊な事情があったためか、第3新東京市民の生活の拠点となる居住施設については独自の整備が進められた。第2次遷都計画発動時、既存の旧箱根町の市街地の流用と、「要塞都市」周辺の住宅建設が並行して進められたのである。ちなみに都市中心部には最先端の技術が導入されていたものの、居住設備や環境整備に

については後回しにされた感が否めなかった。そのため、都心部の機能は最先端ながら、生活圏についてはその限りではないという特異な有り様の都市が形成されることとなったのである。都市が成長していく過程で新旧の施設が混合することは珍しくないが、第3新東京市は「要塞都市」としての機能が重視されたため、その差異が顕著になったというべきだろう。

ちなみに西暦2015年の第3使徒襲来以降、第3新東京市は幾度となく使徒の侵攻に晒され、大規模な被害を受けてきた。そして、第16使徒アルミサエルとの戦いにおいて、ついに第3新東京市の中心部が壊滅的な打撃を受け崩壊。芦ノ湖の水が流れ込み、都市としての機能は完全に失われる事態となった。これにあわせ、民間人は疎開することを余儀なくされている。しかし、その一方で、一連の使徒の侵攻による人的被害は、思いのほか少なかったとも言われている。この結果については、避難シェルターなどの設備の充実が功を奏していたと思われるが、それ以上に、民間人（あるいはその居住施設）が予め危険の少ない地域、第3新東京市市街地を除く地域に点在していたことが大きな要因となっていたものと思われる。



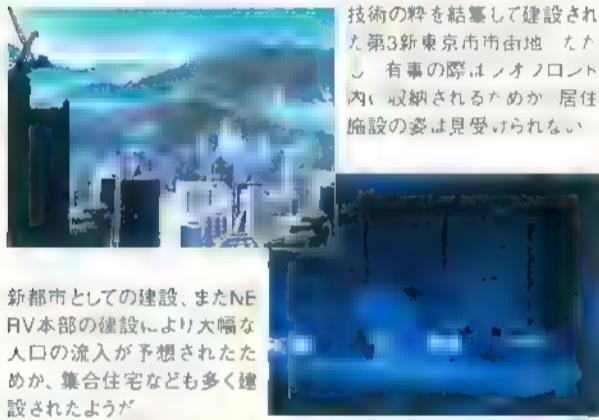
- 第3新東京市
- 葛城ミサト
- 綾波レイ



第2次遷都計画により、新首都として選定され、芦ノ湖付近にて建設が進められている対使徒迎撃要塞都市。

第3新東京市の建設と
居住施設の準備

国連主導で進められた第2次遷都計画。その骨子は主にNERV関連施設の建設を中心としたものである。さらに突き詰めていけば、NERV本部施設を含むジオフロント内部の建設と、使徒を迎撃するための「要塞都市」の建設計画だったといっても過言ではないだろう。ただし、表向きにはあくまで遷都を見越した新都市の建設であったため、人口増加を見越した居住施設の建設も必要となったと考えられる。それに際しては旧箱根町の家屋が活用されたのはもちろん、新たな居住施設の建設も進行。2015年までに新旧の居住施設が準備され、新たな住人 — 特に多くのNERV関係者と、その家族を迎え入れることとなる。ちなみに都市としての第3新東京市は2015年に至っても建設中であり、第16使徒との戦闘により実質的に未完成のまま終焉を迎えることとなる。



第3新東京市に点在する
主な居住施設

第3新東京市市街地東部、芦ノ湖東部を中心に点在する居住施設。比較的新しい集合住宅などは市街地の東、それ以外の一般的な住宅は、旧市街を中心とした広い地域に点在している。



第3新東京市には、その増工と前後して建てられたと思われる居住施設のほか、旧市街の居住施設も点在。新旧入り混じった独特の生活圏を構成している。

なお、旧市街とは基本的に旧箱根町を指すが、第3新東京市市街地周辺、芦ノ湖周辺にある旧来の建物を総称して「旧市街」と呼ぶ場合もあるようだ。

●第3新東京市の主要居住施設

- 1 コンフォート17
- 2 マンモス団地
- 3 旧市街

コンフォート17やマンモス団地といった2005年以降に建てられたと思しきものや、旧市街などにある旧来の家屋。これらの居住施設は第3新東京市の各所に点在している。都心部に居住施設が存在しないのは、ジオフロントに収納されるという構造上の問題や、使徒の侵襲を考慮したためだろう。



比較的新築に近い
分譲形式の集合住宅

第3新東京市市街地に隣接する形で建設された、民間の集合住宅。分譲形式で販売された居室の中にはNERV関係者に購入されたものもあったようだ。

第2次遷都計画を推進するにあたり、移住してくる人々のための居住施設 — 特に少ない土地を有効に活用できる集合住宅の建設が進められたことは想像に難くない。2015年においても完成に至っていないとされる第3新東京市だが、それらの集合住宅はすでに完成を見ており、NERV関係者を中心とする移住者用の居住施設となった。第2次遷都計画発動後に建設されただけあって、それらの集合住宅は、旧市街地の居住施設とは比べ物にならない程の真新しい物件だったようだ。



特記事項

要塞都市で暮らす住民への配慮

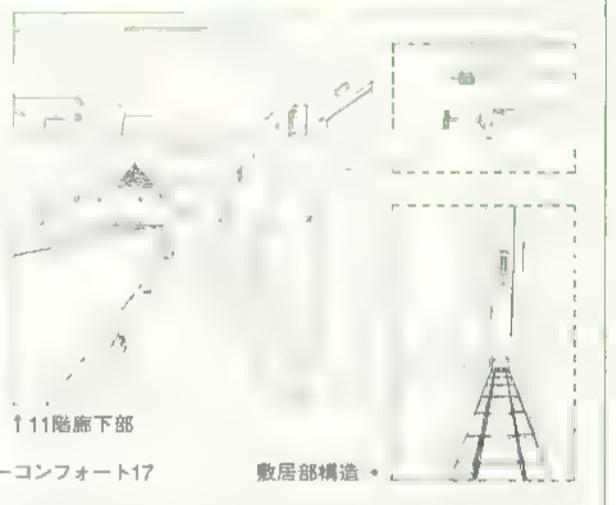
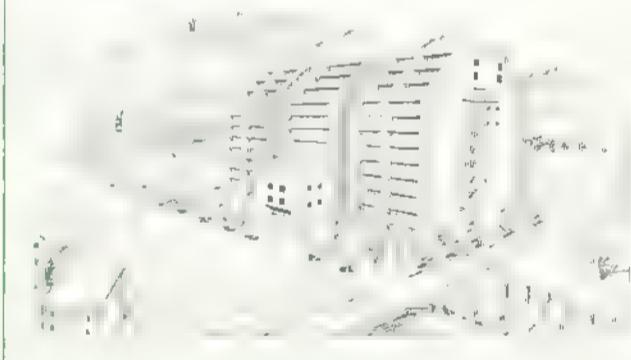
対使徒迎撃要塞都市として建設が進められた第3新東京市。その性質上、そこで暮らす住民のためにさまざまな配慮がなされていた。早期の警報や避難シェルターの設置など直感的な配慮もさることながら、都市中心部を避けた居住施設の配置なども機能的理由だけでなく、使徒の侵襲を配慮したものと考えられる。

ちなみに第16使徒アルミサエルとの戦いにおいて、第3新東京市の中心部は壊滅的な打撃を受けた。しかし、居住施設の大半が市街地周辺に位置していたため、正確な数は公表されていないものの犠牲者はそれほど多くなかったとも言われている。この一例だけを見ても、住民の生活が、なるべく使徒の脅威に晒されぬよう配慮されていたことが窺える。



●コンフォート17

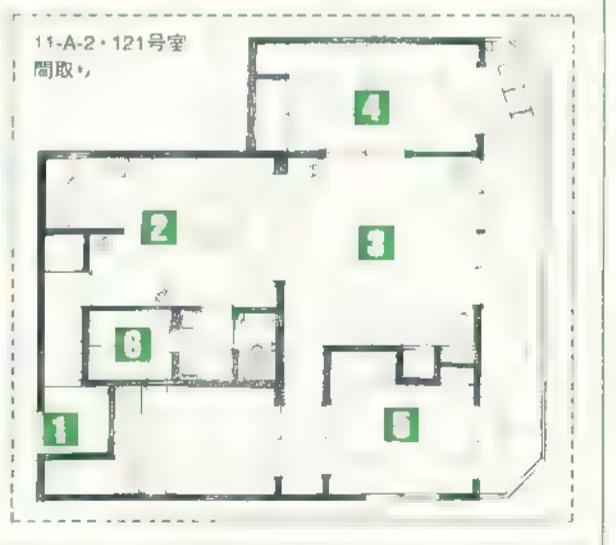
第3新東京市市街地東部に位置する「快適さ」を売りにしたマンション。全158戸。周辺には市街地中心と周辺地域を結ぶ幹線道路があり、交通の便もよい。なお、11階にある一室がミサトの住居となっている。



●11-A-2・121号室 (見取り図)

コンフォート17の11-A-2・121号室は、西側に位置する大きなベランダが特徴の物件である。その間取りは2LDK+S(納戸)。のちに碓シンジ、惣流・アスカ・ラングレーと同居することになるが、独り身のミサトには十分過ぎる広さの住居だったといえるだろう。彼女が何を意図してこの部屋を選んだかは不明だが、NERVにおいてそれに見合った収入を得ているものと考えられる。

- 1 玄関
- 2 ダイニングキッチン
- 3 リビングルーム
- 4 ミサトの部屋
- 5 シンジの部屋
- 6 脱衣場/風呂場



インストールシート
Installation Sheet

第3新東京市・居住施設

Sheet

01

OKYO-3 HOUSING FACILITIES

●11-A-2・121号室内部

ミサト、シンジ、ペンペン、さらに後にやってきたアスカが暮らしている11-A-2・121号室。3人と1羽が生活するのに不自由のない程度の居住スペースを有している。当然ながらNERV関係者であることを示すものは見当たらず、室内の設備についても大型冷蔵庫(ペンペンの部屋)以外に、これといって特殊なものは見当たらない。ちなみに、シンジの部屋は後にアスカが接収。変わりに4畳半程度の納戸がシンジの部屋となった。

1 玄関

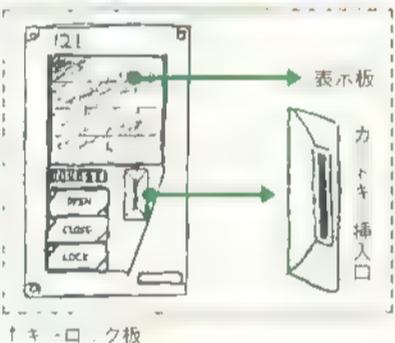
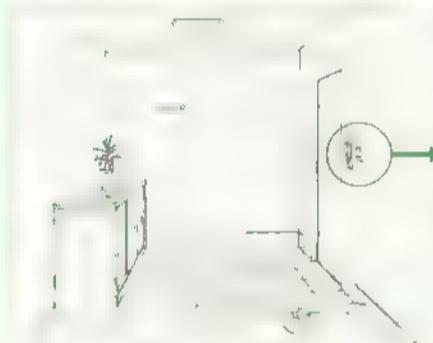
やや広めのスペースが取られている玄関。突き当たりは小さめの納戸となっている。キーロック板以外には、これといって特徴的な設備は見受けられない。



キーロック板などを見る限りセキュリティ面にも配慮がなされているようだが、NERV職員として特に気を配っているわけではないようだ。



シンプルにまとめられている玄関先。ミサトの性質によるところか大きいと思われる。



2 ダイニングキッチン

玄関の先にあるダイニングキッチン。キッチンなどの設備自体は充実している。ちなみにリビング寄りの一角には、ペンペン用の大型冷蔵庫が設置されている。

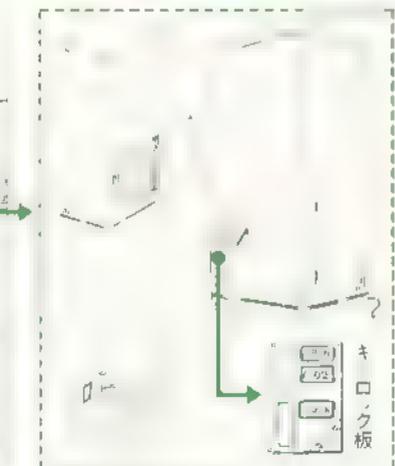
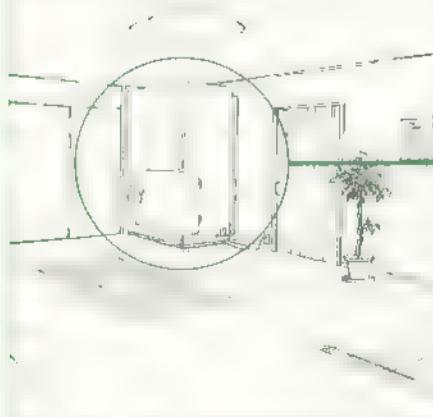


設備的には充実しているダイニングキッチン。また、正常に機能し始めたのはシンジが同居するようになってからという印象が強い場所だ。



ダイニングにある自室で暮らすペンペン。朝食も、ミサトらと共にダイニングでとっている。

■ペンペンの部屋

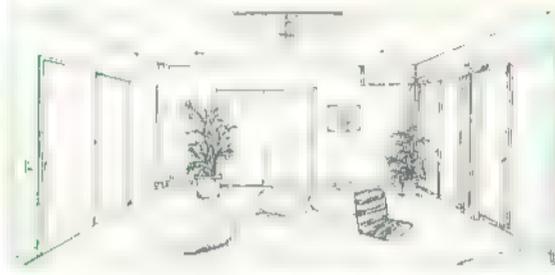


3 リビングルーム

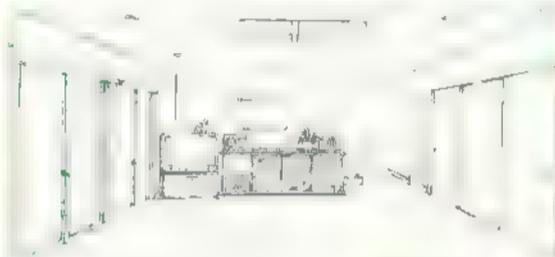
ゆったりとした間取りのリビングルーム。テレビやオーディオ機器、観葉植物などが置かれているが、全体的には非常にシンプルにまとめられた空間となっている。



シンジやアスカが同居してから、何かと人が集まる場所になったリビングルーム。それ以前に訪問した者は、旧友の赤木リツコ程度だろう。



夕食については、時折リビングでとることもあったようだ。



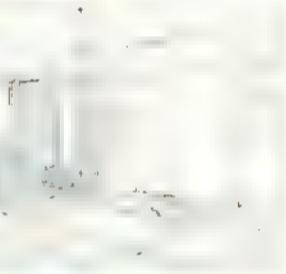
ムーブンをマスターするための特訓もリビングで行なわれた。

4 ミサトの部屋

ダイニングとつながっている7.5畳の和室がミサトの部屋だ。部屋の中央に敷かれた布団が万年床と化しているなど、整理されていないため実際よりも狭く見える。



着衣やCDといったものが乱雑に置かれているミサトの部屋。他人が入ってくるのがないためか、自室を整理整頓するという気はないようだ。



5 シンジの部屋

リビング横にある6畳の洋室。几帳面なシンジの性質を顕著に表した整頓された部屋である。なお、アスカ来日後は、私物の多い彼女がこの部屋を強制的に接収した。



整然とした感のある室内。もともと私物が少ないせいもあるだろうが、見方によっては面白味のない無機質な印象を与える部屋ともいえる。

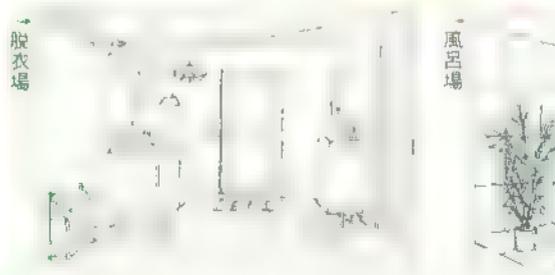


6 脱衣場/風呂場

ほどほどの広さを持った脱衣場と風呂場。風呂場の向かい側はトイレとなっている。ちなみにダイニングとの仕切りはカーテンのみと、意外に前時代的な造りだ。



観葉植物を置くなど、ミサトなりのこだわりが見て取れる浴室。なお脱衣場は、洗濯物を干すスペースとして活用することもあったようだ。



脱衣場

風呂場

都市建設にあわせて建てられた特殊な集合住宅

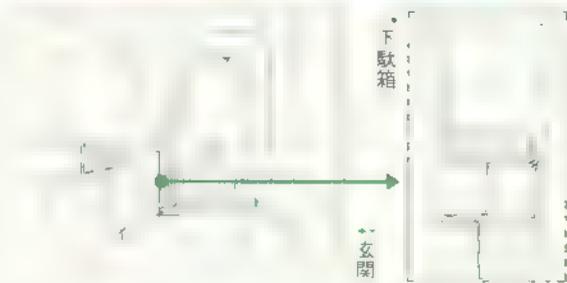
2005年から急ピッチで進められた第2次遷都計画。大量の作業員を導入した同計画においてはそれらの人員のための居住施設の設置も急務とされ、事実、市街地に程近い場所に大規模な集合住宅が建設された。ただし、大規模な建設作業の終息が見込まれた段階でこの特殊な集合住宅は不要のものとなり、徐々に解体作業が進められる運びとなったようだ。ちなみに2015年において、マンモス団地の居住者はほぼ皆無とされている。ただ、その意図するところは不明だが、EVA適格者であるレイはこのマンモス団地の一室で暮らしているという



団地からは人が生活している気配は感じられず、隣接する道路にもところどころに亀裂が見受けられる。市街地に程近い場所にありながら、まさに「スタウン」といった様相を呈した場所だ

●レイの部屋

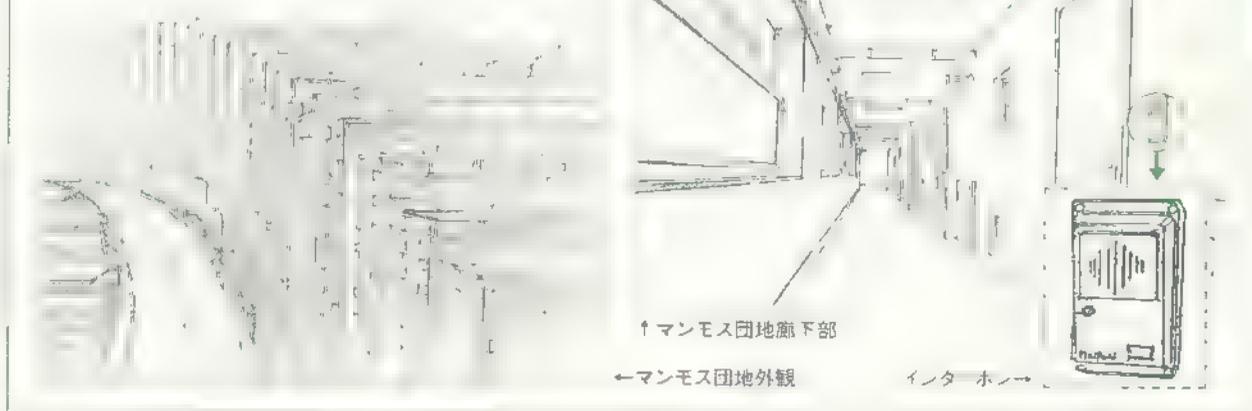
もともとは建設作業員のために用意された部屋であるため、設備は必要最低限といった感じの居室、壁面はコンクリートが打ち放しの状態となっている。



第3新東京市及びジオフロント内部の建設作業を進行するにあたり、膨大な数の建設作業員が派遣された。マンモス団地は彼らのために建設された居住施設である。ちなみにマンモス団地という名称は大規模な集合住宅を指す俗称であり、正式な名称は不明である。

●マンモス団地

いずれ解体することを前提に建設されたためか、住宅団地の意匠は無機質なものだ。各戸に備え付けられたインターホンは、現状では機能するかも怪しい状態である。



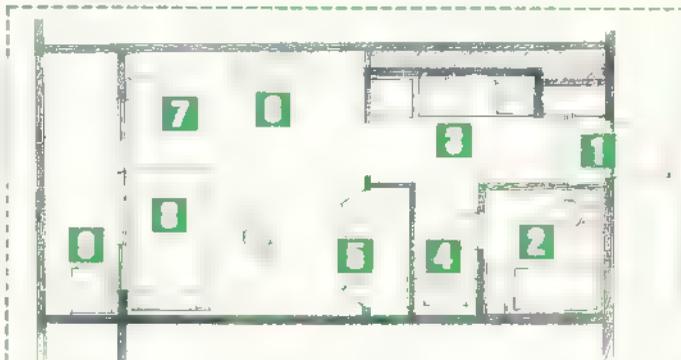
↑マンモス団地地下部

←マンモス団地外観

インターホン



●レイの部屋 間取り



- | | | |
|----------|----------|--------|
| 1 玄関 | 4 洗面台 | 7 チェスト |
| 2 ユニットバス | 5 クローゼット | 8 ベッド |
| 3 キッチン | 6 冷蔵庫 | 9 洗濯機 |

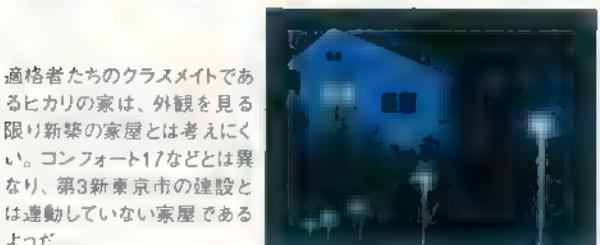
マンモス団地内のレイの部屋。その間取りは単身者用のワンルームといえるところ。キッチンやユニットバスなど、生活するうえで必要最低限の設備は整っている。ただ、レイの性質も影響しているのか、調度品などは極端に少ない

旧市街を中心に立ち並ぶ前時代的な居住施設

第3新東京市の人工ブロック部とその周辺、さらに芦ノ湖周辺の地域には、2005年以前からあったと思しき居住施設が残っている。旧来の家屋が建ち並ぶ街並みは独特ののどかな雰囲気を醸し出しているが、これらは「都市建設計画から外れた施設」ともいえるものであり、市街地と比較して「前時代的な建物の集合体」という見方もできる。市街地の施設が重要視される一方で、隣接する地域についてはさほど手を加えられなかったという事実は、第3新東京市建設計画が特異であったことの証左といえるだろう



時代を感じさせる旧市街の街並み。芦ノ湖東部、南部は第2次遷都計画の建設予定地には加えられなかったのか市街地とは大きく異なる雰囲気を醸し出している場所が多く残されている

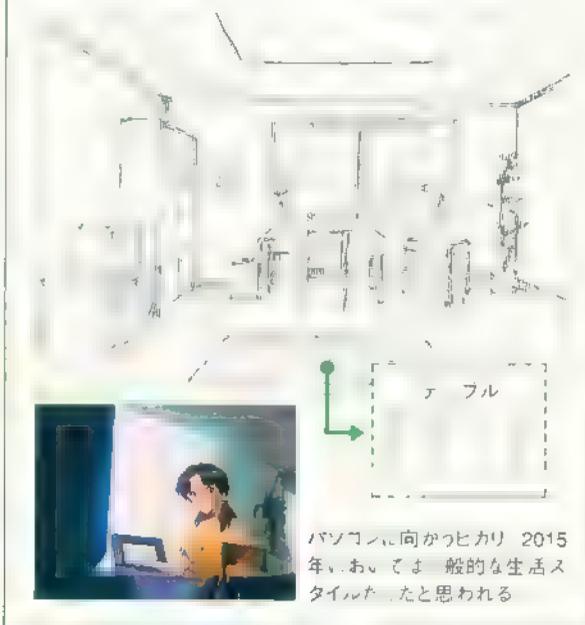


適格者たちのクラスメイトであるヒカリの家は、外観を見る限り新築の家屋とは考えにくい。コンフォート17などとは異なり、第3新東京市の建設とは連動していない家屋であるようだ。

第3新東京市において、民間人の多くは旧市街を中心とした地域、居住施設で暮らしている。その中には都市開発とほとんど連動していない前時代的な家屋も見受けられ、NERV関係者とその家族の中にも、そういった旧来の居住施設で暮らす者が多かったようだ。

●ヒカリの部屋

年頃の少女らしさと委員長らしい生真面目な性質が影響しているものと思われる。清潔感溢れるヒカリの部屋。壁面や天井の素材を見る限り、やはり新築ではなく、旧来の家屋といった雰囲気がある。



デスク

パソコンに向かうヒカリ 2015年、おいて一般的な生活スタイルかと思われる

●トウジの部屋

それなりに整頓されているものところどころに雑誌が放りっぱなしになっているなど、少年らしい乱雑さも見受けられるトウジの部屋。襖の意匠や柱が表出した壁面などは、旧来の家屋らしい内装といえるだろう。



トウジの性格を反映した飾り気のない部屋。ケンスケが訪れることも多かったようだ





EVAが活動するための電力供給源が内部電源に切り替わると、残りの活動可能時間がカウントダウンされていく。その時間が0になるとEVAは活動限界を迎え、その活動を完全に停止するとされている。

EVA活動限界

LIMITATION OF ACTIVITY OF EVA

西暦2015年、15年ぶりに姿を現わした人類の敵とされる未知の生命体、使徒。その脅威に対抗し得る人類唯一の戦力が、国連直属の特務機関NERVが所有する汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンである。

その兵器としてのメカニズムは明らかにされていないが、EVAを稼働させる原動力は電気エネルギー（＝電力）であるとされている。比較的出しやすいエネルギーではあるが、その消費量は膨大であり、EVA本体に内蔵されている内部電源に収められた蓄電量はわずか1～5分程度で消費される。この内部電源の消費によってEVAが稼働不能になることが「活動限界」と呼ばれる兵器としてのEVAの限界であり、これを克服することがEVAの運用における命題といえるものだった。しかし、その道のりは平坦なものではなく、E計画の責任者である赤木リツコ博士ですら1～5分程度のわずかな稼働時間を得ることが、「私たちの科学の限界」と口にしてしている。技術の

弊を結集してその問題点を解決すべく奔走したNERVは、使徒との交戦中に活動限界を迎えることがないように、安定した電力供給システムを模索。第3新東京市の市街地を主戦場と定め、そこに大量の外部電源——アンビリカル・ケーブルを収めた電源ビルを設置することで、これに対処する。しかし、アンビリカル・ケーブルはあくまで外部電源であり、様々な要因によって供給を断たれる可能性を孕んでいた。さらに他の地域が戦場になった場合、流用が難しいなどハードとしての問題点も多かった。

そんな折、NERVは思わぬ形で新たな可能性を手に入る。EVA初号機が殲滅した第4使徒から、使徒の動力源とされるS²機関（スーパーソレノイド機関）のサンプルを手にしたのである。このサンプルはドイツ支部にて修復されたのち、米国第2支部において搭載実験に流用される。実験自体は失敗に終わり使徒殲滅を担うEVAに同機関が搭載されることはなかったものの、そのデータはEVA量産機に搭載された同機関に流用されることとなる——

ちなみに、EVA初号機は、第14使徒ゼルエルとの交戦中に活動限界を迎えるという危機に直面した。

その危機を救ったのは初号機自身の暴走であったが、結果的に第14使徒を殲滅。さらにその身体を捕食したことにより、初号機はS²機関を手に入ることとなった。一部の人間が秘密裏に完遂を目指している「人類補完計画」のシナリオにおいて、NERVが所有するEVA初号機がS²機関を取り込むという事態は、想定されていなかった。ただし、実質的に「人類補完計画」のシナリオを遂行する立場にあった碓ゲンドウ、冬月コウゾウは、あくまで予定の範囲内であったかのような言動を見せている。その意図するところは定かではないが、EVA初号機が活動限界を超越した存在となったことは、「人類補完計画」のシナリオに大きな影響を及ぼす重要な出来事であったと推測できる。

RELATED MATTERS

EVA
・アンビリカル・ケーブル
・暴走



使徒戦の切り札とされる人型兵器。量産機を含む14機のEVAのうち、零号機、初号機、式号機をNERV本部が所有している。

安定した活動を可能とする
EVA専用電力供給システム

■EVA専用の電源設備

稼働時の動力源として、電力を必要とするEVA。対する使徒は、例外なく無尽蔵の動力源「S機関」を有しており、それに対抗するEVAにも、長時間の稼働を可能とする電力供給システムが用意された。なお、使用される電源のうち、EVAに内蔵された「内部電源」が最後に使用する動力源となる。

この電力が消費されるとEVAは稼働を停止してしまうため、アンピリカル・ケーブルや非常用電池といった「外部電源」が開発され、メインの電力供給システムとして使用されることとなった。ちなみに、活動限界に達するまでの残り時間は、主電源供給システムのモニター画面上に表示され、これが実質的な使徒戦のタイムリミットとされることも多かった。

電源ビルからケーブルを引出す式号機。第3新東京市の市街であれば、ほぼ無限の稼働が可能であった。



外部電源接続時は、内部電源からの電力供給を遮断。非常時に備え、電力を蓄存することが可能となる。

■EVA専用の電源設備

対使徒戦用の切り札として開発されたEVA。その稼働に際しては、相応の電力が必要となる。無論、戦闘が長時間に及ぶことも念頭に入れる必要があったため、専用の電源設備、装備の充実が必須であった。

戦闘に際してメインの電源として活用されたのは、常に電力を供給できる外部電源、アンピリカル・ケーブルである。その機構は電源コードのようなものであったため、第3新東京市という都市ぐるみの環境整備が行なわれた。



基本的にNERV本部を目標して侵攻してくる使徒。主戦場として建設された第3新東京市の各所にはケーブルが多数用意されており、EVAは次々とケーブルを付け替えつつ稼働できた。

EVAに電力を供給するアンピリカル・ケーブル。三種のソケット部は、EVAの背中に接続する仕組みになっている。へその緒を意味する重要な設備で、第3新東京市の各地にケーブルが収納された電源ビルが建てられていた。なお、NERVは装着に際して運用する特殊車両なども有していたようだ。

▼アンピリカル・ケーブル接続部(ソケット部)



アンピリカル・ケーブルが接続できない状況では、非常用電池が活用された。ただし、非常に限定された状況のみで使用されるものだったようで、その使用頻度は少なかった。

▶EVA専用非常用電池▶

▼EVA電源移送トレーラー▼



■各種電源と基本的な活動時間

電力供給システムとしての内部電源は、EVAをフル稼働するとわずかな時間で活動限界に達してしまうものだった。そのため戦闘時には主に外部電源が使用されたが、アンピリカル・ケーブルはEVAの移動に制限を与えるものであった。また、非常用電池については移動に配慮されていたが、連続稼働時間に若干難のある装

備であった感否めない。戦略を練る作戦部においては、これらの特徴を踏まえて作戦を立案する必要が生じたであろうことは想像に難くない。

メインの電力供給源であるアンピリカル・ケーブルも、取り回しが悪いなどの欠点もあった。



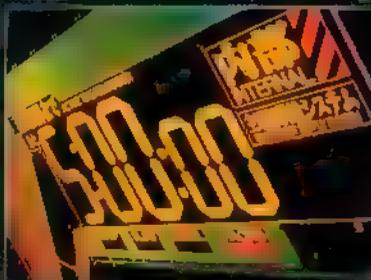
米国第2支部ではS機関稼働実験が行なわれた。しかし実験は失敗。半径89km内の施設が消滅した。

■各種電源と基本的な活動時間

EVAを稼働させるために用意されている外部電源。アンピリカル・ケーブルは接続状態であれば電力を供給し続け、無限の稼働が可能となる。対して非常用電池は、EVAの稼働状況により多少の誤差が発生するようだが、おおむね5~10分程度の稼働が可能と思われる。また、EVAはこれ以外にも内部電源を有しており、外部電源からの電力供給が断たれた場合でも1~5分程度の稼働が可能とされている。なお、内

部電源での稼働による活動可能時間が「活動限界」と呼ばれるもので、この限界時間は稼働状況や起動時の蓄電量などにより多少の誤差が発生するようだ。

ちなみに後に、これらの電源とはまったく異なる永久機関「S機関」と呼ばれるエネルギー供給源がNERVの手によって開発されるが、本部が所有する零号機、初号機、式号機がこれを搭載することはなかった。



アンピリカル・ケーブルや非常用電池を利用しない、あるいはそれらからの電力供給が断たれた場合、内部電源が電力の供給元となる。その電力供給も途切れた場合には、EVAが活動を停止する。



「活動限界」を越えた後の稼働について、「あり得ない」というリツコ。ただでさえ艦に包まれた存在のEVAだが、その最悪のメカニズムについても解明されていない不透明な部分のひとつである。

/// 追加報告 ///

■内部電源とゲインについて

リツコいわく EVAは「体内電池 内部電源」に切り替えると、蓄電容量の関係でフルで1分、ゲインを利用してせいぜい5分しか稼働できない」という。外部電源が利用できない、あるいはそこからの供給が何らかの理由で断たれた場合、1~5分がEVAの活動限界となる。ちなみに「ゲイン」とは、増幅器によって電気信号を増幅することまたはその増幅の値のことを指す。このゲインを介することで、電力をより大きな出力エネルギーへと増幅するため、最大で5倍の稼働が可能となるようだ。



外部電源を接続して戦えば、ほぼ無限、稼働できるEVA。ただし、状況によっては1~5分という活動限界内での戦いを全儀なくされることもあった。太平洋上で第6使徒を迎え撃った式号機は、輸送中であったためゲインすら未使用。1分といわずかな時間で外部電源用ソケットの取り付けを敢行した。

■対使徒戦と活動限界

電力供給をサポートする様々な装備が用意されているものの、突如襲来する使徒との戦いにおいては、それらを利用できない状況に陥ることもある。特に初号機については、内部電源による電力供給のみで戦う機会が多く、実際に活動限界を迎えるケースが多かった。なお、以降で紹介する対第4使徒戦においては5分、対第14使徒戦においては2分程度が活動限界となっており、後者については戦闘中に活動限界を迎えるという非常にまれなケースであった。



活動限界を迎えることは、実質的な「戦闘不能」状態を意味する。第14使徒との戦闘中に活動限界を迎えた初号機は暴走により事なきを得たものの、非常に危険な状況に置かれていたといえる。

第1例

攻撃目標

第4使徒 シュムシエル

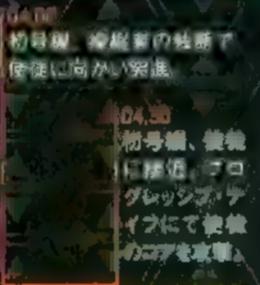


両者の身体は、戦況の激変を持つ。初号機は第3新東京市でこれを迎え撃った戦闘突入時に接続されていたアンビリカルケーブルは、使徒の攻撃を受けて切断。以降は内部電源のみでの稼働を余儀なくされた。その際の活動限界は5分であったため、タイムを利用して稼働していたものと思われる。ちなみに、第4使徒はほぼ無傷で沈黙した。また、使徒の死体を利用してNERVに回復させた。同時にコアの一部も回収された。戦闘終了後、初号機は解航が行われた。



活動限界を考慮して暴走を指示するコマンド。しかしシンジはこの命令を無視し、使徒に向かっていた。

使徒と相対する初号機。使徒破壊と同時に活動限界を迎える。暴走を指示するコマンドは無効であった。



第2例

攻撃目標

第14使徒 ゼルエル

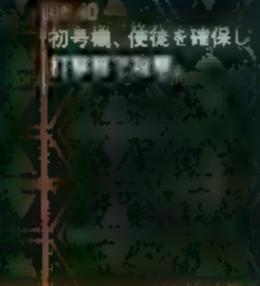


両者の身体は、戦況の激変を持つ。初号機はNERV本部内にてこれを迎撃。EVA射出用のリフトを利用して、機体の外に戦場を移した。急遽戦闘に突入したため、アンビリカルケーブルや非常用電池などは利用しておらず、内部電源のみで稼働していた。この第14使徒戦において、初号機は2分程度で活動限界を迎えたが、これは直前まで護盾レイ、ダミープラグでの出撃を模索したことや、NERV本部内の壁を破るという激しい活動を行なったことなどが原因と思われる。



リフトにて第14使徒と共にNERV本部外に射出された初号機。圧倒的な攻撃力で敵を蹂躞するが、

活動限界を迎え、無防備な状態で使徒の攻撃を受ける初号機。その危機を救ったのは暴走であった。



リスクを考慮した運用法

対使徒戦における作戦内容は、当然ながら使徒の行動、攻撃パターンなどを分析したのちに発案される。その中にはわずかな時間で遂行可能なものもあったが、1~5分という活動限界内での決着を見込んだ作戦は少なく、基本的にEVAは外部電源をメインとして運用することとなっていたようだ。

なお、すべての使徒戦を俯瞰した場合、初号機の暴走は、すべて活動限界を迎えた場合を含む「戦闘不能時」に発生している。この一例を見ても、活動限界が設定されるという状況は大きなリスクを背負うことと同義であり、緊急時を除いて避けるべき状態であったといえるだろう。

内部電源から供給される電力を使い切り、活動限界を迎えた初号機。本来ならば戦闘中に活動限界を迎えることは、事実上の敗北を意味する。



使徒との戦闘において、暴走することが多い初号機。第12使徒の虚数空間内部に取り込まれた際にも、十数時間経過後に暴走し自力で脱出した。

追加報告

EVA弐号機の活動限界

トイソから輸送され、太平洋上で第6使徒カキエルを迎え撃ったEVA弐号機。ケインを利用できない状態であったためか、1分で活動限界を迎えるという危うい状態で活動。念のために用意されていた外部電源用ソケットを取り付け、本格的な戦闘に望んだ。実戦用に作られた制式モデルとされている弐号機だが、基本的に零号機や初号機と同様に、内部電源を使用した場合の稼働時間はフルで1分。ケインを利用して5分程度と、活動限界に差異は見られない。

ちなみに、EVA量産機との戦闘時、弐号機は活動限界を迎えたあとにも活動の兆候を見せた。これは特殊な機能ではなく、暴走の兆候であったようだ。



第6使徒の襲撃を受けこれを迎撃すべく起動された弐号機。起動直後は内部電源を使用しており、その活動限界は1分程度であった。



アンビリカルケーブルによる電力の供給なしで戦った弐号機。S機関が搭載された量産機との戦いは、非常に不利なものであった。

無限の活動を可能とした
新たなエネルギー源の出現

S²機関の概要

先に述べた通り、アンビリカル・ケーブルをメインとしたEVAの運用には、取り回しや設置箇所といった様々な問題点があった。そのため、NERVは早い段階から新たなエネルギー源として、葛城博士が提唱し、研究が進められていたS²機関に着目。第4使徒から入手したサンプルの解析

を進め、EVAに搭載可能なS²機関の開発を進めた。これにより一応の完成を見たS²機関は、EVA4号機への搭載実験を経て問題点を修正、EVA量産機に搭載された。なお、量産機に搭載されたS²機関は、無限の活動時間を与えるエネルギー源の役割だけでなく、驚異的な自己修復能力をももっていた。その能力は使徒が持つS²機関と同様のものではなかった。

ゼーレが所有していたと言われるすべてのEVA量産機は、動力源としてS²機関を搭載していた。



第14使徒を捕獲すること、S²機関を直接取り込んだ初号機。以降は活動時間が無限大となった。

特記事項

活動限界の先にあるもの

先に述べた通り、1~5分が内部電源によるEVAの活動限界である。この限界を迎えたEVAが稼働することは、理論上ありえないとされている。しかしEVAは実際には幾度となく暴走と呼ばれる状態に陥り、活動限界を超えてもなお、激しい攻撃行動を見せている。

EVAの素体は有機的な人造人間であると言われていたが、それが真実であるならば、暴走時の活動は素体自体が持つエネルギーを糧にしているとも考えられる。活動限界時、他者による操作を解除されたEVAが、自身の意思によって活動するといった推測もできるが、その真相は明らかにされていない。



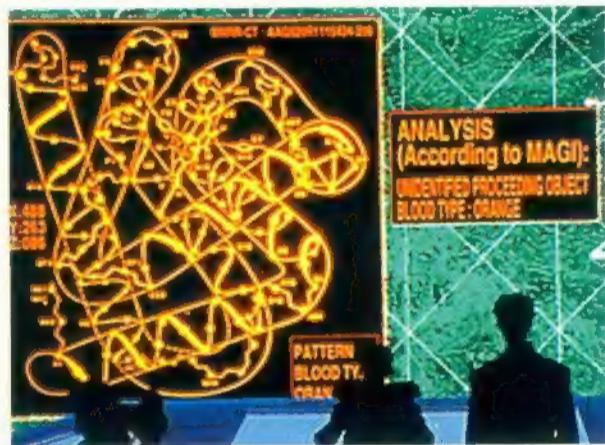
度々暴走し、操縦者の意思とは関係なく使徒に攻撃を加える初号機。その際に見せる攻撃力は、常に使徒を蹂躞する圧倒的なものだった。

活動限界を迎えEVA量産機、蹂躞された式号機。最期に暴走の兆候を見せたものの、初号機のような力を見せることはなかった。



ブラッドタイプ

NERVが対象を分析した際のカテゴリズに用いられる。ブラッドタイプが青の場合は使徒、オレンジの場合は不明（使徒と断定できない）。対象の波長などの解析はMAGIによって行われ、ブラッドタイプが判断される。外見上、明らかに使徒と考えられる場合であってもMAGIによるブラッドタイプの判断が優先されるようである。ただし、総司令の決定によりオレンジの対象を使徒と認定した例もある。ブラッドパターンとはほぼ同義語。なお、「ブラッドタイプ」とは血液型の意。パターン・青、パターン・オレンジも参照。



対象の解析の結果、遺伝子に類する配列パターンを指すものと思われる図が表示され、ブラッドタイプにより使徒か否かカテゴリー分けされる。

フリゲート

軍艦の艦種のひとつ。国家の運用方針などによりフリゲートの定義は違うため明確に定義されていないが、一般的には駆逐艦より小さく満載排水量2,000~4,000t程度のものを指すことが多く、軽駆逐艦とも呼ばれる。作業用のためか、NERV本部のあるジオフロントの地底湖とターミナルドグマ最深部にあるL.C.L.プラントに停泊している。なお、地底湖の艦においては、戦略自衛隊の攻撃から身を守るためEVA式号機によって盾代わりに使われ、そのあと武器としてロケットランチャー車両などに投げつけられた。



国連軍太平洋艦隊のフリゲートは、第6使徒ガギエルによって沈められた艦や自沈する戦艦の漂流者救助の任にあたった。

プリブノーボックス

NERV本部内にある施設のひとつ。B棟の地下、シグマユニットに隣接して配置されている。ここでオートパイロット実験が行なわれていたが、第11使徒イロウルの侵食を受けたことにより廃棄された。なお、プリブノーボックスとは分子生物学用語であり、原核生物の遺伝子において、RNAポリメラーゼによる転写が開始する位置の、上流10塩基対の位置にみとめられる共通塩基配列のことを指す。これは発見者

D・プリブナウの名にちなんで命名された。



造りは他の実験場とはほぼ同じようだが、模擬体が設置されており、作業用のポリゾームも用意してある。

プログレッシブ・ナイフ

型番はPK-01。EVAが使用する武器のひとつ。略称はプログ・ナイフ。近接戦闘において使用されるコンパクトナイフ状の武器で、左肩のウェポン・ベイに内蔵されている。高振動粒子の刃を持ち、接触する物体を分子レベルで切断することが可能。EVA初号機のほかEVA零号機が装備している。



リーチは短い、その分小回りが利く武器として使用頻度は高い。使徒に対しての決定打となったことも多い。

プログレッシブ・ナイフ (改)

型番はPK-02。EVA式号機が使用する武器のひとつ。EVA初号機が用いるプログレッシブ・ナイフと同じく高振動粒子の刃を持つが、その形状はドイツ支部にて改良されたカッターナイフ状のものである。替刃が装填してあるため、破損した部分の刃を押し出すことで新しい刃を出すことができ、刀身の長さや切れ味を損なうことはない。ただし、EVA量産機との戦闘の際は2、3回の使用でポロボロになっており、替え刃方式のため耐久性はPK-01に劣ると考えられる。



式号機の標準装備であるPK-02の刃は、実際のカッターナイフとは逆に付いているのが特徴。

フロッピー

パソコンに用いられている大容量メディア。記憶媒体としてはスタンダードなものようで、NERVのほか相田ケンスケのような一般人も用いている。碓シンジと惣流・アスカ・ラングレーの成績は、フロッピーによって葛城ミサトに筒抜けだったほか、日向マコトの机の中にも作戦局の日向用フロッピーが見られる。なお、フリーペーパーらしき「アナクロファンのための本」『CDファン』創刊0号が綾波レイのA

パート郵便受けに入れられていることから、光磁気ディスクは廃れてしまっているようである。



加持リョウジの考案した二点同時過重攻撃の作戦案は、「マイ♥ハニーへ」とラベルに描かれたフロッピーでミサトへ渡された。

分離不安

心理学用語であり、強い愛着を持っている人物などと離れる場合に、孤立を恐れて不安や悲しみなどの過剰な反応を示すことを指す。主に幼児が母親などの肉親から離される際に見られる状態。ジオフロントの湖底に沈められたEVA式号機内の惣流・アスカ・ラングレーの内的世界において、綾波レイが投げかける「他人の中に自分を求めているのね」「ひとりになるのが怖いんでしょ」「他人と一緒に、自分もいなくなるから怖いんでしょ」との言葉の合間にこの語が浮かぶ。



内的世界において、アスカはレイから自らの心を指摘され、「EVAに乗ること」の理由のひとつが孤独を恐れるがゆえだと暴かれることになる。

● CATEGORY

兵装ビル

第3新東京市の各所に設置されている偽装ビルのひとつ。その名の通りEVA用の武器を収めてある格納庫で、第3新東京市の各所に設置してある。あらかじめ用意されている武器を必要に応じてビルから取り出す。予備のパレットライフルのほか、大型の火器や長尺の近接戦闘用武器などが収納されている。発令所のコントロールによってビルのロックが解除され、武器を受け取ることができるようになる。その際、EVAの兵器管制システムと連動し、ビルの位置をガイドする仕組みを持つ。



大型の武器を持ち歩く事は機動力を大幅に下げられるため、臨機応変に使用できる兵装ビルの存在は対使徒戦においては欠かせない。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ

平常心

碓シンジの私服のタンクトップに印刷されている文字。赤い日の丸の上から、黒い筆文字で印字されている。二点同時過重攻撃作戦の前夜、準備をするべく葛城ミサトが家をあけたため、シンジと惣流・アスカ・ラングレーがふたりきりで過ごすことになった晩、シンジはこのタンクトップを着ていた。なお、「XTC」のロゴが入ったTシャツも持つ。



下にはハーフパンツを着用しているシンジ。彼の飾らない私服が見られる。

ハイフリックの限界

生物学において、細胞分裂の限界値を意味する言葉。人間ならば50回が限度とされる。アメリカの医学者レオナード・ハイフリックは、胎児の線維芽細胞を培養した際に、一定回数で分裂が停止することを発見した。第14使徒ゼルエルとの戦闘で大破したEVA零号機とEVA式号機に対し、伊吹マヤは「ハイフリックの限界を超えています」と赤木リツコに報告している。これは、損傷によって生体部品の自己修復能力が機能しなくなったという意味と考えられる。

ベークライト

世界初の人工的に生成されたプラスチックで、熱硬化性樹脂に分類されるフェノール樹脂。フェノールとホルムアルデヒドを原料とする茶褐色で透明の樹脂で、1909年に米国人のベークランドが製法特許を取得し、翌年に設立した「General Bakelite社」において工業化することとなった際に付けられた商品名がベークライトである。樹脂そのものを製品として成型することはあまりないが、耐熱、耐油、耐薬などの性能が高いほか電気絶縁性にも富むため、絶縁体として広く使用されている。起動実験の際に暴走したEVA零号機の動きを封じるべく用いられたのは即乾性の特殊ベークライトであり、加持リョウジによってNERV本部に運び込まれたアダムとされるサンプルを固めていたのは硬化ベークライトであった。



戦略自衛隊がNERV本部に侵攻、第3層B、Fブロックに侵入された際に、葛城ミサトの指示で第3層を破壊し、803区間までの全通路とパイプにベークライトを注入して敵部隊の足止めを図った。

ペシミズム

厭世主義。物事を悲観的に捉える思想のこと。人類補完委員会の特別召集会議において、第5使徒ラミエル戦を検証す

る際に用いられたと考えられる相田ケンスケの個人資料の抜粋に「綾波は自分の存在を稀薄に感じているように見えるからだ。ペシミズムとは違う何かを、彼女はすでに持っていると思う。同じ14歳とは思えないほどに」とある。彼の綾波レイに対する考察はほぼ的を射ている。人類補完が始まる際のレイの内的世界において、彼女は「私は死にたいもの」「欲しいものは絶望。無へと還りたいの」と望んでおり、これがレイの持つ「ペシミズムとは違う何か」であろう。

H&K USP

葛城ミサトが所持している自動拳銃。H&Kとはドイツの銃器メーカー、Heckler & Koch GmbH社のこと。USPはUniversal Self-loading Pistolの略で、同社が開発した中でもハンドガンの基幹となっており、USPコンパクト、USPエリート、USPタクティカルなど多くのバリエーションが製造されている。ドイツ軍がUSP9をP8という名で制式採用しており、ポリマーフレームによる軽量化のほか、左右両用のマガジンキャッチやバリエーションの多いコントロールレバーを持つ。弾丸は9mmパラベラム、.40S&Wのほか.45ACPを用いる大口徑バージョンがある。



ミサトの銃は、ボディアーマーを着込んだ相手にも効果が高い.45ACP使用のUSP45と思われる。この銃で戦略自衛隊に白兵戦を挑み、碓シンジを助け出した。

ヘブンズドア

「天国の扉」の意味。NERVの最深部であるターミナルドグマのL.C.L.プラント入り口を指して、日向マコトが称した言葉。嚴重に閉じてあったはずのヘブンズドアは、第17使徒タブリスが視線を向けるだけで容易に最終安全装置が解除された。

便所

第334地下避難所の男子トイレ。第4使徒シャムシエルの襲来によって避難していた相田ケンスケが、避難所を抜け出す相談のためと鈴原トウジを誘って連れションを行なった。



訓練などで頻繁に使っていたため汚れが目立つ。使用不可能の便器もあり、一次的な避難所のためか手入れは行き届いていないようだ。

ペンペン

葛城ミサトの同居者である新種の温泉ペンギンの名前。性別はオスで、ネームプレートの刻印は「BX293A PEN[♂]」。温

泉ペンギンの名の通りに好んで風呂に入浴している。ダイニングに置いてある専用の冷蔵庫が寝床であり、中にはウォーターベッドとTVが設置されている。また、知能はかなり高く新聞も読むが、内容を理解しているかどうかは不明。なお、雑食なようで魚だけではなくラーメンなども食べる。第16使徒アルミサエルとの戦闘で第3新東京市が壊滅した際、疎開することになった洞木ヒカリのもとに預けられた。



手先が器用で、翼の先にある爪を用いて扉の開閉ボタンを押すことなども可能。非常に人間くさい生活を送っている。

● CATEGORY ほ

BOA

YEBICHUと並び葛城ミサトが愛飲している、麦芽100%のビールの銘柄。KUROSHIO BUSSAN製。



ミサトの三佐昇進パーティで用意されたビールはBOA銘柄であった。

保安条例第8項

NERV内における規約のひとつ。第4使徒シャムシエル戦の後に家出した碓シンジは、この条例を適用され本部に連行された。その際は保安課報部の人間が5人で訪れている。

保安課報部

NERV内における部署のひとつ。NERVの秩序を維持するための課報活動が主な任務。EVA操縦適格者などの要人の護衛のほか、脱走した際などにも駆り出され、捜索して身柄を拘束する。また、公にできない裏工作なども行なっている模様。課報2課も参照。



保安課報部の人員は皆、黒のスーツを着用しているが、それが制服であるかは不明。

あ I need you. Do you love me? INDEX

項目名	Sheet
アータ引越センター	01
R警報	01
R-017	01
R-07	01
R-075	01
R-20	01
VOシステム	01
ICC	01
相田ケンスケ	01
IDカード	01
I NEED YOU	01
青葉シゲル	01
赤き土の涙	01
赤木ナオコ	01
赤木リツコ	01
阿賀野カエデ	01
浅間山	01
浅間山地震観測研究所	01
浅利ケイタ	01
芦ノ湖	01
アスカ、来日	01
アダム	01
アダム計画	01
アダムの胎児	01
厚木	01
AVISビール	02
アブソバー	02
アポトーシス	02
雨、逃げ出した後	02
綾波レイ	02
アラエル	02
アルバイト	02
アルビーヌ・ルノーA310(改)	02
アルミサエル	02
安全限界深度	02
あんた、バカあ!?	02
アンチA.T.フィールド	02
アンビリアル・ケーブル	02
アンビリアル・ブリッジ	02
い	
E計画	02
E事件	02
イージス艦	02
E層	02
EP2式サルベージ作業手順要綱(含、LP3式補充手順)	02
委員長	02
碓ゲンドウ	02
碓シンジ	03
碓ユイ	03
遺書	03
イスラフェル	03
位相空間	03
1億8千万kW	03
一次的接触	03
1/1バルーン・ダミー	03
14式大型移動指揮車	03
14式大型架橋自走車	03
命の選択を	03
伊吹マヤ	03
イリノイ	03
入間	03
イロウル	03
インターフェイス・ヘッドセット	03
インダクション・モード	03
インダクション・レバー	03
intのC	03
う	
ヴィルヘルムスハーフェン	03

嘘と沈黙	03
歌	03
裏コード	03
裏死海文書	04
え	
Air	04
EVAシリーズ	04
EVA専用改造陽電子砲(ネルフ仕様 もと戦自研自走陽電子砲)	04
EVA専用耐熱光波防御兵器(急造仕様)	04
EVA専用輸送台	04
EVA専用陽電子砲(内環加速式試作20型)	04
EVA長距離輸送機	04
エヴァンゲリオン	04
エヴァンゲリオン3号機	04
エヴァンゲリオン3号機起動実験	04
エヴァンゲリオン初号機	04
エヴァンゲリオン零号機	04
エヴァンゲリオン零号機・改	04
エヴァンゲリオン弐号機	04
エヴァンゲリオン4号機	04
エヴァンゲリオン量産機	05
ACレコーダー	05
A-17	05
A.T.フィールド	05
A ¹⁰ 神経	05
A-7	05
A-8	05
A-801	05
エクタ64	05
エジェクションカバー	05
SSTO	05
SDATウォークマン	05
S ¹ 機関	05
S ² 理論	05
SU-27	05
n ² 兵器	05
n ² 航空爆雷	05
n ² 地雷	05
n ² 爆弾	05
n ² 爆雷	05
YEBICHU	05
F型装備	06
F型装備	06
L.C.L.	06
L.C.L.圧縮濃度	06
L.C.L.PURITY	06
L.C.L.プラント	06
ELEE	06
ANGEL	06
エントリープラグ	06
エントリープラグ内スクリーン	06
エントリープラグ内通信用ウィンドウ	06
お	
近江屋	06
大井サツキ	06
大型機	06
大型破砕兵器デュアル・ソー	06
大型ミサイル	06
オート・エジェクション	06
オートパイロット実験	06
09システム	06
オーバー・ザ・レインボウ	06
オーバー・ザ・レインボウ艦長	07
オーバー・ザ・レインボウ副長	07
大満谷	07
おかえりなさい	07
オセロー	07
汚染区域	07
オゾン	07
男の戦い	07
お弁当	07

オリジナル使徒	07
終わる世界	07
温泉ペンギン	07

か I need you. Do you love me? INDEX

項目名	Sheet
Car OX	07
カートレイン	07
外部電源用ソケット	07
ガギエル	07
加持のテレカ	07
可視波長のエネルギー波	07
加持リョウジ	08
下垂システム	08
カスパー	08
仮設ケイジ	08
活動限界	08
活動停止信号	08
葛城調査団	08
葛城博士	08
葛城ミサト	08
カノン	08
カバラ	08
カプセル	08
ガフの部屋	08
加粒子砲	09
カレー	09
監査部	09
感情素子	09
き	
キール・ローレンツ	09
擬似エントリー	09
技術開発部第3課	09
技術開発部第2課	09
技術局第1課	09
奇跡の価値は	09
機体回収班	09
機体相互互換実験	09
機体運動試験	09
起動	09
起動確率	09
起動指数	09
起動実験	09
起動手順	09
希望	09
キャッチャー	09
旧伊東沖通過戦	09
99.99%	09
旧東京	10
旧東京再開発臨海部国立第3試験場	10
教師	10
教授	10
共生	10
強制サルベージ	10
強制排出	10
京都	10
京都府警署	10
虚数空間	10
巨大人型自走兵器	10
キヨミ	10
霧島マナ	10
緊急処置室	10
緊急マニュアル	10
キングス弁	10
近接戦闘	10
金髪	10
く	
グーテンモルゲン	10

空母	11
クライン空間	11
クレーター	11
クローン	11
黒き月	11
グロック17	11

け

迎撃システム	11
ケイジ	11
形而上生物学	11
形而上生物学第一研究室	11
警備車	11
ゲイン	11
GATE13	11
撃鉄	11
結界	11
「結晶遺伝子」論	11
決戦、第3新東京市	11
ゲム	11
ゲム生物学	12
ゲヒルン	12
KERMADEC-3	12
減速材	12
ケンタッキー	12
ゲンドウの眼鏡	12

こ

コア	12
来い	12
コインクリーニング	12
硬化ベークライト	12
高機動モード	12
拘束具	12
広報部	12
強羅絶対防衛線	12
コード707	12
コキュートス	12
国際公務員	13
国連	13
国連軍	13
国連軍高官	13
心のかたち、人のかたち	13
コダマ	13
コトコ	13
胸ヶ岳防衛線	13
固有波形パターン	13
こんごう	13
コントロール・レバー	13
コンフォート17マンション	13

さ I need you. Do you love me? Take care of yourself. INDEX

項目名	Sheet
サーチ衛星	13
サードインパクト	13
サードチルドレン	13
再起動	13
再起動実験	13
最後のシ者	13
最終安全装置	14
最終安全装置	14
最終安全装置	14
最初の人間	14
サキエル	14
作業員	14
作戦課第二分析室	14
作戦部第一課	14
サターン	14
鯖	14
サハクィエル	14
サブコンピュータ	14
サルページ	14
三佐	14

サンダルフォン	14
3バカトリオ	14
サンプル	14
303病室	14

し

CTモニター	14
Cモード	15
シールド	15
J.A.(ジェットアローン)	15
J.A.改	15
J.A.完成披露記念会	15
JASDF	15
ジェット・アローン起動用オペレーティングシステム	15
ジュリコの壺	15
ジオイド深度	15
塩の柱	15
ジオフロント	15
死海文書	15
自我境界線	15
シグマユニット	15
思考言語	15
思考ノイズ	15
自己診断モード	15
自走陽電子砲	15
師団長	15
使徒	16
使徒、襲来	16
使徒、侵入	16
使徒と呼称される物体及び人類補完計画(仮称)に関する第1次中間報告書	16
シナプス	16
シナリオ	16
シナリオB-22	16
死に至る病、そして	16
自爆プログラム	16
シミュレーション	16
シミュレーションプラグ	16
自滅促進プログラム	16
ジャイアント・ストロング・エントリー	16
シャノンバイオ	16
シャムシエル	16
集光ビル	16
18番目の使徒	16
首相官邸執務室	17
瞬間、心、重ねて	17
迷洋艦	17
昇進祝い	17
女性オペレーター	17
所長室	17
司令席	17
白き月	17
新厚木	17
人格移植OS	17
シンクロ率	17
神経接続	17
人工進化研究所	17
人工進化研究所 3号分室	17
新庄隊	17
人造人間	17
新箱根湯本駅	17
シンペリン	17
新横須賀	17
心理グラフ	17
人類補完委員会	17
人類補完委員会委員	18
人類補完委員会特別召集会議	18
人類補完計画	18

す

スイカ畑	18
水櫃	18
スーツフィットスイッチ	18
スクール水着	18

鈴原トウジ	18
鈴原トウジの妹	18
素手	18
スナイパーライフル	18
スマッシュ・ホーク	18
駿河湾	18

せ

生活当番表	18
聖痕	18
静止した闇の中で	18
精神汚染	18
精神崩壊	18
生体コンピュータ	19
生体部品	19
生体融合	19
政府専用列車	19
生命維持モード	19
生命の樹	19
生命の実	19
生命のスープ	19
ゼーレ	19
ゼーレ、魂の座	19
ゼーレのエンブレム	19
ゼーレのメンバー	19
世界の中心でアイを叫んだだけのもの	19
「セカンドインパクト」	19
セカンドインパクト	19
セカンドチルドレン	19
接触実験	19
絶対境界線	19
セフィロートの樹	20
せめて、人間らしく	20
ゼルエル	20
0001-137-22	20
選挙カー	20
戦車	20
先生	20
戦闘形態	20
セントラルドグマ	20
戦略自衛隊	20
戦略自衛隊つくば技術研究本部	20
全領域兵器/マステマ	20

そ

総合警戒管制室	20
総合制御地点	20
操縦席	20
総司令官公務室	20
双方向回線	20
総務局3課	20
惣流・アスカ・ラングレー	21
惣流・アスカ・ラングレーの義母	21
惣流・アスカ・ラングレーの父	21
惣流・キョウコ・ツェッペリン	21
素体	21
SONY SUPER 8	21
ソニックグレイブ	21
ソレノイドグラフ	21

た I need you. Do you love me? Take care of yourself. INDEX

項目名	Sheet
ターミナルドグマ	21
第1宇宙速度	21
第1次直上会戦	21
第1使徒	21
第1支部	21
第一脳神経外科	21
第9使徒	21
対空砲	21
大剣	21
第5使徒	21
第3声ノ湖	21